

目次

教育理念・教育目的・教育目標	3
ディプロマポリシー	5
カリキュラムポリシー	5
主要概念の定義	11
授業科目・単位数・学科進度	13
教育内容	19
Ⅰ 基礎分野	20
Ⅱ 専門基礎分野	36
Ⅲ 専門分野	61
1. 基礎看護学	62
2. 地域・在宅看護論	78
3. 成人看護学	88
4. 老年看護学	98
5. 小児看護学	106
6. 母性看護学	114
7. 精神看護学	122
8. 看護の統合と実践	130
Ⅳ 臨地実習	138
1. 基礎看護学実習	140
2. 地域・在宅看護論実習	141
3. 成人看護学実習	142
4. 老年看護学実習	143
5. 小児看護学実習	144
6. 母性看護学実習	145
7. 精神看護学実習	146
8. 統合実習	147
Ⅴ 特別活動	148

教育理念・教育目的・教育目標

教育理念

本校は、人々が健康な生活を営むために必要な、地域医療の担い手として活躍できる質の高い看護師を育成することを責務としている。

看護は、人間と環境の相互作用における生活にかかわり、最適な健康状態に達するのを援助する働きであり、健康の保持増進、疾病の予防、疾病からの回復、尊厳を保った安らかな死へ寄与することを目指した行為である。

その目的を達成するために、科学的基盤に立脚した専門的知識・技術を用い、多職種と協働して、現在及び将来にわたり、人々の日常生活を整えることを通して、健康に貢献することのできる看護実践者の育成を目指す。

教育目的

変化する社会、保健・医療・福祉の状況に看護師として対応できるように、学生が人間性豊かな感性をもち、道徳的倫理的価値を形成するよう支援する。

教育目標

1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉えるとともに、生活者として深く理解できる。
2. 人々の多様性を理解し、共感できる豊かな人間性と倫理的態度を培う。
3. 人々の健康状態やその変化に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を身につける。
4. 人々の健康課題に対応するために、科学的根拠に基づいた臨床判断と課題解決のための看護実践能力を身につける。
5. 地域社会の人々の健康に関するニーズに対応する一員として、看護職が果たす役割と責任を理解し、多職種と連携・協働できる基礎的能力を身につける。
6. 看護専門職として成長し続けるために、より質の高い看護を探究する姿勢を身につける。

ディプロマポリシー カリキュラムポリシー

ディプロマポリシー（卒業認定の方針）

1. 対象を理解する能力

- 1) 人間の生命活動の仕組み、発達過程とその特徴を理解している。
- 2) 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者として総合的に理解することができる。

2. 人間関係を築く能力

- 1) 人々の多様な価値観、生活、信条などを理解し尊重することができる。
- 2) 多様な人々との人間関係を築くための豊かなコミュニケーション能力がある。
- 3) 対象者の尊厳を守り意思決定を尊重する意義を理解し、倫理的問題や葛藤が生じた場合には、それを解決し守るための実践を目指そうとすることができる。

3. 看護を提供するための確実な知識・技術

- 1) 健康状態に応じた看護実践に必要な基礎的な知識・技術を修得している。
- 2) 発達段階、生活の場、状況に応じた看護実践に必要な基礎的な知識・技術を修得している。

4. 看護実践能力

- 1) 対象の健康状態、発達段階、生活の場、状況とその変化を捉えて解釈し、科学的根拠に基づき看護の必要性を判断できる。
- 2) 対象の健康状態、発達段階、生活の場、状況とその変化に対応し、課題解決のための看護実践ができる。

5. 地域で活躍できる能力

- 1) 地域における人々の健康課題に対応するための看護職が果たす役割と責任を理解している。
- 2) 対象の健康課題に対応するため保健医療福祉に関わる様々な人々との連携・協働の方法を理解している。

6. 看護を創造する能力

- 1) 看護職として成長し続けるための自己の課題を認識し、主体的に学び続ける姿勢をもつことができる。
- 2) 変化し続ける社会情勢と社会が求める看護師の役割に関心を寄せる姿勢をもつことができる。
- 3) 看護とは何か、自分の言葉で語ることができ、看護の質の向上を目指し、既成概念にとらわれず対象の視点で看護を創造しようとする姿勢を持つことができる。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施、学修成果の評価の方針）

本校のカリキュラムは、教育理念、教育目標に基づき、ディプロマポリシーに掲げた能力を修得できることを目指し、以下の内容・方法・評価の方針でカリキュラムを体系的に編成し実施する。

具体的には、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の3分野から構成し、地域を理解し、地域で生活する人々の健康課題に適切に対応できる看護実践能力を育成するために、体系的に学べるように配置している。

＜教育内容＞

1. 基礎分野では、看護職に求められる科学的思考と豊かな感性を備えた人間性と、看護を主体的・創造的に実践する能力を養うことを目的とする。専門基礎分野・専門分野の基礎として位置づけ、「科学的思考の基盤」「人間と生活・社会の理解」の2つの内容で構成している。専門基礎分野・専門分野の学習を経ることで学びが深まるものは3年次に配置している。これらの学修を通して、科学的な思考力、看護の対象である人間を理解する能力、人間関係を形成するためのコミュニケーション能力を育成する。
2. 専門基礎分野は、疾病や障害の理解、疾病の回復の促進の方法、健康や障害の状態に応じた社会資源についての知識を看護実践に活用する能力を養うことを目的とする。「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の3つの内容で専門分野につながる内容で構成している。これらの学修を通して、対象の健康状態、発達段階、生活の場、状況とその変化を捉えて解釈し科学的根拠に基づき看護の必要性を判断する能力、人々の健康を支えるための社会の仕組みを幅広く理解する能力、保健・医療の場において情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的能力を育成する。
3. 専門分野は、基礎分野・専門基礎分野の学習を踏まえ、「基礎看護学」「地域・在宅看護論」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護の統合と実践」の8つの内容で構成している。専門分野には臨地実習を含む。講義・演習で科学的知識・技術を習得するとともに看護者としての態度を学ぶ。臨地実習では、あらゆる看護の場において、実際の看護の対象に看護を展開する体験を通じて既習の理論・知識・技術を統合し学びの深化を目指す。

「基礎看護学」は、専門分野全体の基礎として位置づけ看護学全体の主要概念と保健・医療・福祉の場における看護の役割と看護の基礎となる知識・技術・態度を学ぶ。「地域・在宅看護論」は、地域で生活する人と家族の健康と暮らしを理解し、多様な場で生活する人々への看護を学ぶ。「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」は、成長発達段階を理解し、多様な健康上の課題と各期の看護の特徴を踏まえ、あらゆる成長発達、健康状態及び多様な生活の場で看護を必要とする対象にあわせた看護を学ぶ。

「看護の統合と実践」は各専門領域の学習を踏まえ、臨床で実際に活用できる能力を養う科目を配置し、臨地実習では実務に即して医療チームの一員としての看護の役割を学ぶ。これらの学修を通して、対象の健康状態、発達段階、生活の場、状況とその変化に対応し、課題解決のための看護実践ができる能力及び対象の健康課題に対応するための多職種との連携・協働のための基礎的能力を育成する。

＜教育方法＞

1. 地域包括ケアシステムの担い手として活躍できる人材育成のために、本校が所在する上尾市原市地区を中心とした地域の人的・物的資源を活用した体験を重視する。
2. 学習効果を高めるために、授業目的との関連で多様な授業形態を組み合わせる。特に、アクティブラーニングを積極的に採用し、主体的な学びを促進する。
3. 臨床判断能力を段階的に養うために、臨地実習における応用、実践を目指して、学内においてシミュレーターを活用した実践的な学習の機会を設定する。
4. 人間的な成長を促進するために、多様な背景をもつ学生が入学までに培ってきた能力を活かした学生相互の学びあいや、少人数グループでの指導により、多様な価値観に触れる機会を設定する。
5. あらゆる対象との信頼関係を形成する礎となる豊かなコミュニケーション能力を養うために、情報通信技術（ICT）も活用し、学校内外のあらゆる人々との交流の機会を設定する。
6. 看護への関心・意欲を高め、学びを深めるために、自己評価と他者評価を踏まえた省察を促す機会を設定する。

＜学修評価＞

成績評価は、講義、演習、臨地実習等の授業形態に応じて、筆記試験、課題レポート、発表、技術試験等、適切な評価方法及び評価基準により、学修の成果を評価し単位を与えるものとする。

具体的には学則第 13 条に基づき下記のとおり定めている。

1. 授業科目の成績評価は A・B・C・D で表記する。

- A 100 点～85 点
- B 84 点～70 点
- C 69 点～60 点
- D 60 点未満

2. 規定により、上記 A・B・C を合格とし、D を不合格とする。

3. 再試験・再実習と追試験・追実習の取り扱いは以下の通りとする。

- ・試験の不合格者に対しては、再試験願いにより承認を得たものに、1 回に限り再試験を認める。
- ・再試験・再実習の合格基準は上記 2) に準ずる。ただし、取得点が 61 点以上であっても、合格最低点（60 点）をもって試験成績とする。
- ・試験の未受験者に対しては、追試験願いにより承認を得たものに、追試験を認める。
- ・追試験の合格基準については、本試験合格基準 C の 125% (60 点×125＝75 点) 以上とする。
- ・追実習の成績については素点とする。

4. 客観的な指標の算出方法について

当該学年で履修すべき全教科の成績結果(100 点満点)を合計し、平均点を算出する。

<カリキュラムマップ>

上尾看護専門学校カリキュラムマップ

■教育目的

変化する社会、保健医療福祉の状況に看護師として対応できるように、学生が人間性豊かな感性をもち、道徳的倫理的価値を形成するよう支援する。

対象を理解する能力

人間関係を築く能力

看護を提供するための確実な知識・技術

看護実践能力

地域で活躍できる能力

看護を創造する能力

ディプロマポリシー

教育目標	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉えるとともに、生活者として深く理解できる。	人々の多様性を理解し、共感できる豊かな人間性と倫理的態度を培う。	人々の健康状態やその変化に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を身につける。	人々の健康課題に対応するために、科学的根拠に基づいた臨床判断と課題解決のための看護実践能力を身につける。	地域社会の人々の健康に関するニーズに対応する一員として、看護職が果たす役割と責任を理解し、他職種と連携・協働できる基礎的能力を身につける。	看護専門職として成長し続けるために、より質の高い看護を探究する姿勢を身につける。
3年次		文学	癒しの科学	医療安全 看護倫理 教育学	災害看護 看護をとりまく法律 社会福祉論 公衆衛生学 健康と生活を支えるシステム 英語Ⅱ	ケーススタディ 看護研究 看護管理
2年次	統合実習 精神看護学実習 母性看護学実習 小児看護学実習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 地域・在宅看護論実習Ⅰ 地域・在宅看護論実習Ⅱ 地域・在宅看護論実習Ⅲ					
1年次				形態機能学Ⅱ		
	基礎看護学実習Ⅱ			基礎看護学実習Ⅲ		
	臨床看護総論			医療情報学 臨床治療論		
	精神看護援助論Ⅰ 精神看護援助論Ⅱ 精神看護援助論Ⅲ 母性看護援助論Ⅱ 母性看護援助論Ⅲ 小児看護援助論Ⅰ 小児看護援助論Ⅱ 小児看護援助論Ⅲ 老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ 成人看護援助論Ⅳ 成人看護援助論Ⅴ 地域・在宅看護援助論Ⅱ 地域・在宅看護演習					
	英語Ⅰ カウンセリング	診療に伴う援助技術Ⅱ 診療に伴う援助技術Ⅰ				
	母性看護援助論Ⅰ 成人看護学概論 老年看護学概論	成人看護援助論Ⅰ 小児看護学概論 母性看護学概論 精神看護学概論 看護過程展開の技術 看護技術の統合演習 地域・在宅看護援助論Ⅰ				
	基礎看護学実習Ⅰ					
		薬理学 感染と免疫 病態論Ⅲ 病態論Ⅳ 病態論Ⅰ 病態論Ⅱ 病態生理学			老年看護演習 家族看護	
	地域・在宅看護概論					
	人体機能Ⅰ 人体機能Ⅱ 人体構造Ⅰ 人体構造Ⅱ 栄養学 生化学 生活科学 生物学	生活と社会学 生涯発達論 情報リテラシー 人間関係論 心理学	フィジカルアセスメント 日常生活援助技術Ⅱ 日常生活援助技術Ⅰ 看護に共通する技術Ⅱ 看護に共通する技術Ⅰ 形態機能学Ⅰ 論理学		地域と暮らしの理解	キャリア入門
	看護学概論					

基礎分野

専門基礎分野

専門分野

臨地実習

主要概念の定義

本校では教育課程を編成するにあたって、人間、環境、健康、看護の4つを主要概念として設定した。

<人間>

1. 人間とは身体的、精神的にも固有の存在である。同時に家族・集団・地域の中で、他者と相互行為を繰り返しながら成長し、影響し、調和を図りながら生活する社会的存在である。
2. 人間は価値、自立性、独自性を生から死に至っても永遠に尊厳を持つ存在である。
3. 人間は身体的社会的統合体であり、基本的ニーズを持ち成長発達し、自然治癒力を持つ。
4. 人間は環境と相互作用し環境の中で生活を営んでいる。生活と環境の調整は環境における各人の相互行為によって影響を受ける。

<環境>

1. 環境とは外的環境と内的環境とがあり人間の生活に影響する。
2. 外的環境は自然環境と社会的環境とがありこれらは相互に影響しあう。
3. 内的環境は生体内部環境であり人間の生命現象に深く関与する。
4. 外的環境と内的環境は相互に影響しあい、人間は内的環境の恒常性維持に向けて外的環境と相互作用する。
5. 環境は常に変化し、環境と人間の相互作用に深く関与する。

<健康>

1. 健康とは、人間が日常生活において、自らの能力を最大限に発揮している動的状態を示す。その状態は、諸能力を最適な条件で活用することによって、外的環境・内的環境からくるストレスに対して継続的に調整する1つの連続体であり、より高い可能性を目指して変動する動的存在である。
2. 健康状態は人間と環境の相互行為に影響を与える。
3. 最高水準の健康状態の獲得には、外的環境・内的環境における恒常性維持が必要である。
4. 病気という健康状態は、環境に対して生体の恒常性を維持できないときに出現する。
5. 正常から逸脱した健康状態とは、身体的不均衡状態・心理的不均衡状態・社会的葛藤状態を意味する。
6. 最高水準の健康の達成は、人間が絶えずそれに向けて努力する目標である。

<看護>

1. 看護の対象は、環境と相互行為を重ねている人間であり、看護は最適な健康状態を目指し看護技術を媒介とした人間的相互作用の過程である。
2. 看護の目標は、健康の保持・増進、健康の回復、苦痛の緩和を図り、生涯を通してその人らしく生を全うすることができるよう、個人・家族・集団・地域を援助することである。
3. 看護は正常な生命活動、正常な成長発達を促すために日常生活行動を整え援助することを通して、その人らしい生活の質を保つ働きである。
4. 看護は、人々の健康上の顕在または潜在している課題についてそれらを解決、緩和するための一連の実践活動である。

授業科目・単位数・学科進度

教育課程											
区分	教育内容	科 目 名	単位(時間)	第1学年	第2学年	第3学年					
基礎分野	科学的思考の基盤	生物学	1	15	1	15					
		生活科学	1	30	1	30					
		心理学	1	30	1	30					
		論理学	1	30	1	30					
		教育学	1	30			1	30			
	人間と生活・社会の理解	キャリア入門	1	15	1	15					
		情報リテラシー	1	15	1	15					
		人間関係論	1	30	1	30					
		生活と社会学	1	30	1	30					
		生涯発達論	1	15	1	15					
		カウンセリング	1	15		1	15				
		英 語 I	1	30		1	30				
		英 語 II	1	30			1	30			
文 学	1	30			1	30					
小 計			14	345	9	210	2	45	3	90	
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体構造Ⅰ	1	30	1	30					
		人体構造Ⅱ	1	30	1	30					
		人体機能Ⅰ	1	30	1	30					
		人体機能Ⅱ	1	30	1	30					
		形態機能学Ⅰ	1	15	1	15					
		形態機能学Ⅱ	1	15			1	15			
		生化学	1	30	1	30					
		栄養学	1	15	1	15					
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学	1	30	1	30					
		病 態 論 Ⅰ	1	30	1	30					
		病 態 論 Ⅱ	1	30	1	30					
		病 態 論 Ⅲ	1	30	1	30					
		病 態 論 Ⅳ	1	30	1	30					
		薬理学	1	30	1	30					
		感染と免疫	1	30	1	30					
		臨床治療論	1	30			1	30			
	健康支援と社会保障制度	医療情報学	1	15			1	15			
		健康と生活を支えるシステム	1	20					1	20	
		公衆衛生学	1	15					1	15	
		看護をとりまく法律	1	30					1	30	
		社会福祉論	1	15					1	15	
		癒しの科学	1	30					1	30	
		小 計	22	560	14	390	3	60	5	110	
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	1	30					
		看護に共通する技術Ⅰ	1	30	1	30					
		看護に共通する技術Ⅱ	1	30	1	30					
		日常生活援助技術Ⅰ	1	30	1	30					
		日常生活援助技術Ⅱ	1	30	1	30					
		診療に伴う援助技術Ⅰ	1	30			1	30			
		診療に伴う援助技術Ⅱ	1	30			1	30			
		フィジカルアセスメント	1	30	1	30					
		看護過程展開の技術	1	30	1	30					
		看護技術の統合演習	1	30	1	30					
		臨床看護総論	1	30			1	30			
		看護倫理	1	15					1	15	
	地域・在宅看護論	地域と暮らしの理解	1	15	1	15					
		地域・在宅看護概論	1	30	1	30					
		地域・在宅看護援助論Ⅰ	1	15	1	15					
		地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30			1	30			
		地域・在宅看護演習	1	15			1	15			
		家族看護	1	15	1	15					
	成人看護学	成人看護学概論	1	30	1	30					
		成人看護援助論Ⅰ	1	30	1	30					
		成人看護援助論Ⅱ	1	30			1	30			
		成人看護援助論Ⅲ	1	30			1	30			
		成人看護援助論Ⅳ	1	30			1	30			
		成人看護援助論Ⅴ	1	30			1	30			
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	1	30					
		老年看護援助論Ⅰ	1	30			1	30			
		老年看護援助論Ⅱ	1	15			1	15			
	小児看護学	老年看護演習	1	15	1	15					
		小児看護学概論	1	15	1	15					
		小児看護援助論Ⅰ	1	15			1	15			
		小児看護援助論Ⅱ	1	30			1	30			
		小児看護援助論Ⅲ	1	30			1	30			
	母性看護学	母性看護学概論	1	15	1	15					
		母性看護援助論Ⅰ	1	15	1	15					
		母性看護援助論Ⅱ	1	30			1	30			
		母性看護援助論Ⅲ	1	30			1	30			
	精神看護学	精神看護学概論	1	15	1	15					
		精神看護援助論Ⅰ	1	15			1	15			
		精神看護援助論Ⅱ	1	30			1	30			
		精神看護援助論Ⅲ	1	30			1	30			
	看護の統合と実践	看護研究	1	15					1	15	
		医療安全	1	30					1	30	
		看護管理	1	30					1	30	
		災害看護	1	30					1	30	
		ケーススタディ	1	30					1	30	
		基礎看護学実習Ⅰ	1	30	1	30					
	臨 地 実 習	基礎看護学実習Ⅱ	1	30			1	30			
基礎看護学実習Ⅲ		2	60			2	60				
地域・在宅看護論実習Ⅰ		2	60			10	330	10	330		
地域・在宅看護論実習Ⅱ		2	60								
地域・在宅看護論実習Ⅲ		2	60								
成人看護学実習Ⅰ		2	60								
成人看護学実習Ⅱ		2	90								
老年看護学実習Ⅰ		2	60								
老年看護学実習Ⅱ		2	90								
小児看護学実習		2	60								
母性看護学実習		2	60								
精神看護学実習		2	60								
統合実習		4	120					4	120		
小 計			73	2040	21	510	32	930	20	600	
合計(卒業に必要な総時間数)			109	2945	44	1110	37	1035	28	800	

<参考>

	科目名	単位(時間)		学年	内容	1年生	2年生	3年生	テスト%
基礎分野	生物学	1	15	1		7回			100
	生活科学	1	30	1		14回			100
	心理学	1	30	1		14回			100
	論理学	1	30	1		14回			レポート100
	教育学	1	30	3	概説			7回	50
					健康教育			7回	レポート50
	キャリア入門	1	15	1		8回			レポート
	情報リテラシー	1	15	1		7回			100
	人間関係論	1	30	1		14回			可否
	生活と社会学	1	30	1		14回			レポート100
	生涯発達論	1	15	1		7回			100
	カウンセリング	1	15	2			7回		100
	英語Ⅰ	1	30	2			14回		100
	英語Ⅱ	1	30	3				14回	100
	文学	1	30	3				14回	レポート100
専門基礎分野	人体構造Ⅰ	1	30	1		14回			100
	人体構造Ⅱ	1	30	1		14回			100
	人体機能Ⅰ	1	30	1		14回			100
	人体機能Ⅱ	1	30	1		14回			100
	形態機能学Ⅰ	1	15	1		7回			100
	形態機能学Ⅱ	1	15	2			8回		可否
	生化学	1	30	1		14回			100
	栄養学	1	15	1		7回			100
	病態生理学	1	30	1		14回			100
	病態論Ⅰ	1	30	1	呼吸器・循環器	14回			100
	病態論Ⅱ	1	30	1	概要・消化管	4回			30
					肝臓・胆嚢・膵臓・腹壁・腹膜	3回			20
					内分泌・代謝	7回			50
	病態論Ⅲ	1	30	1	運動器	4回			30
					脳神経	6回			40
					感覚器	4回			30
	病態論Ⅳ	1	30	1	血液・造血器・免疫	7回			50
					腎泌尿器	7回			50
	薬理学	1	30	1		14回			100
	感染と免疫	1	30	1		14回			100
	臨床治療論				麻酔		2回		40
		1	30	2	東洋医学		3回		
					リハビリテーション		6回		40
					放射線医学		3回		20
	医療情報学	1	15	2			7回		100
	健康と生活を支えるシステム	1	20	3				10回	可否
	公衆衛生学	1	15	3				7回	100
	看護をとりまく法律	1	30	3				14回	100
	社会福祉論	1	15	3				7回	100
	癒しの科学	1	30	3	音楽療法			6回	レポート可否
					アロマセラピー			4回	レポート可否
					ヨガ			5回	レポート可否

専門分野	看護学概論	1	30	1	概論	14回			100
	看護に共通する技術Ⅰ	1	30	1	看護技術とは	3回			20
					感染予防の技術	6回			45
					環境調整技術	5回			35
	看護に共通する技術Ⅱ	1	30	1	コミュニケーション	7回			50
					活動・休息援助技術	7回			50
	日常生活援助技術Ⅰ	1	30	1	食事援助技術	7回			50
					排泄援助技術	7回			50
	日常生活援助技術Ⅱ	1	30	1	清潔・衣生活援助技術	14回			100
	診療に伴う援助技術Ⅰ	1	30	2	臨床薬理		7回		50
					与薬の技術		7回		50
	診療に伴う援助技術Ⅱ	1	30	2	生体機能管理		6回		45
					創傷管理		3回		20
					呼吸・循環を整える技術		5回		35
	フィジカルアセスメント	1	30	1		14回			100
	看護過程展開の技術	1	30	1		14回			100
	看護技術の統合演習	1	30	1		15回			合否
	臨床看護総論	1	30	2			15回		合否
	看護倫理	1	15	3				7回	100
	地域と暮らしの理解	1	15	1	地域特性の理解	8回			合否
	地域・在宅看護概論	1	30	1	在宅看護とは	14回			100
	地域・在宅看護援助論Ⅰ	1	15	1	日常生活援助	7回			100
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30	2	医療的ケア・状態別の支援		9回		65
					療養者と家族の支援		5回		35
	地域・在宅看護演習	1	15	2	高齢者見守り訪問		8回		100
	家族看護	1	15	1	家族支援	7回			100
	成人看護学概論	1	30	1	概論	14回			100
	成人看護援助論Ⅰ	1	30	1	呼吸器	6回			50
					循環器	6回			50
					救急蘇生法 BLS	2回			—
	成人看護援助論Ⅱ	1	30	2	消化器の看護		5回		35
					内分泌・代謝の看護		5回		35
					慢性期の看護		4回		30
	成人看護援助論Ⅲ	1	30	2	運動器の看護		4回		30
					感覚機能障害と看護		2回		15
					脳・神経の看護		4回		30
					回復期の看護		4回		25
	成人看護援助論Ⅳ	1	30	2	血液・造血器の看護		2回		20
					AIDS		2回		10
					腎・泌尿器の看護		4回		30
					がん看護		6回		40
	成人看護援助論Ⅴ	1	30	2	クリティカルケア看護		7回		50
					終末期看護		7回		50
	老年看護学概論	1	30	1	概論	14回			100
	老年看護援助論Ⅰ	1	30	2	生活機能の特徴		7回		50
					健康課題の特徴		7回		50
	老年看護援助論Ⅱ	1	15	2	看護過程の展開		8回		合否
	老年看護演習	1	15	1	高齢者見守り訪問	8回			合否

専門分野	小児看護学概論	1	15	1	概論	7回			100
	小児看護援助論Ⅰ	1	15	2	小児疾患		5回		70
					小児外科		2回		30
	小児看護援助論Ⅱ	1	30	2	援助の方法		10回		85
					エンドオブライフ		2回		—
					重身障害児		2回		15
	小児看護援助論Ⅲ	1	30	2	技術		14回		100
	母性看護学概論	1	15	1	概論	7回			100
	母性看護援助論Ⅰ	1	15	1	ライフサイクル各期の看護	7回			100
	母性看護援助論Ⅱ	1	30	2	周産期の看護(妊娠期・分娩期)		14回		100
	母性看護援助論Ⅲ	1	30	2	周産期の看護(産褥期)		6回		40
					周産期の看護(新生児期)		8回		60
	精神看護学概論	1	15	1	概論	7回			100
	精神看護援助論Ⅰ	1	15	2	疾患・病態		7回		100
	精神看護援助論Ⅱ	1	30	2	ケアの人間関係・回復の支援		7回		50
					入院治療・身体ケア		7回		50
	精神看護援助論Ⅲ	1	30	2	地域におけるケアと支援・災害時の看護		12回		100
					安全・メンタルヘルス				
					依存症の人に対する支援		2回		—
	看護研究	1	15	3				7回	100
	医療安全	1	30	3	医療安全			6回	50
					アンガーマネジメント			2回	—
					安全対策			6回	50
	看護管理	1	30	3	看護管理			5回	50
					看護管理			2回	—
					多職種合同カンファレンス			7回	レポート50
	災害看護	1	30	3	災害看護			12回	100
					災害看護			2回	—
					国際看護			2回	—
	ケーススタディ	1	30	3				15回	論文評価可否

<実務経験のある教員による授業科目の一覧表>

一覧表に記載の授業科目については、担当の専任教員が実務経験を十分に授業に活かし、実践的な教育を行う。

分野		授業科目	単位	時間数	実務経験の概要
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	看護師 臨床経験
		看護に共通する技術Ⅰ	1	30	看護師 臨床経験
		看護に共通する技術Ⅱ	1	30	看護師 臨床経験
		日常生活援助技術Ⅰ	1	30	看護師 臨床経験
		日常生活援助技術Ⅱ	1	30	看護師 臨床経験
		診療に伴う援助技術Ⅰ	1	30	看護師 臨床経験
		診療に伴う援助技術Ⅱ	1	30	看護師 臨床経験
		フィジカルアセスメント	1	30	看護師 臨床経験
		看護過程展開の技術	1	30	看護師 臨床経験
		看護技術の統合演習	1	30	看護師 臨床経験
		臨床看護総論	1	30	看護師 臨床経験
	地域・在宅看護論	地域と暮らしの理解	1	15	看護師 臨床経験
		地域・在宅看護概論	1	30	看護師 臨床経験
		地域・在宅看護援助論Ⅰ	1	15	看護師 臨床経験
		地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30	看護師 臨床経験
		地域・在宅看護演習	1	15	看護師 臨床経験
	成人看護学	成人看護援助論Ⅰ	1	30	看護師 臨床経験
		成人看護援助論Ⅱ	1	30	看護師 臨床経験
		成人看護援助論Ⅲ	1	30	看護師 臨床経験
		成人看護援助論Ⅳ	1	30	看護師 臨床経験
		成人看護援助論Ⅴ	1	30	看護師 臨床経験
	老年看護学	老年看護援助論Ⅰ	1	30	看護師 臨床経験
		老年看護援助論Ⅱ	1	15	看護師 臨床経験
		老年看護演習	1	15	看護師 臨床経験
	小児看護学	小児看護学概論	1	15	看護師 臨床経験
		小児看護援助論Ⅱ	1	30	看護師 臨床経験
		小児看護援助論Ⅲ	1	30	看護師 臨床経験
	母性看護学	母性看護学概論	1	15	助産師 臨床経験
		母性看護援助論Ⅰ	1	15	助産師 臨床経験
		母性看護援助論Ⅱ	1	30	助産師 臨床経験
		母性看護援助論Ⅲ	1	30	助産師 臨床経験
	精神看護学	精神看護援助論Ⅱ	1	30	看護師 臨床経験
		精神看護援助論Ⅲ	1	30	看護師 臨床経験
	看護の統合と実践	看護管理	1	30	看護師 臨床経験
		災害看護	1	30	看護師 臨床経験
		ケーススタディ	1	30	看護師 臨床経験
合計			38	1020	

教育内容

I 基礎分野

目的

人間に焦点をあてた科学的根拠を追究する論理的な思考力と、幅広い教養と豊かな感性を培うことを通して、看護の対象である人間を多角的な視点から理解し、看護を主体的創造的に実践するための基礎的能力を養う。

目標

1. 科学的根拠を追究する論理的な思考過程の基礎を理解し、幅広い視野で物事を考える能力と素養を身につける。
2. 看護の対象である人間を理解するための多角的な視点を学び、人間と生活・社会を理解する。

科目の構成・計画

教育内容	科目名	単位(時間)		第1学年		第2学年		第3学年	
科学的思考の基盤	生物学	1	15	1	15				
	生活科学	1	30	1	30				
	心理学	1	30	1	30				
	論理学	1	30	1	30				
	教育学	1	30					1	30
人間と生活・社会の理解	キャリア入門	1	15	1	15				
	情報リテラシー	1	15	1	15				
	人間関係論	1	30	1	30				
	生活と社会学	1	30	1	30				
	生涯発達論	1	15	1	15				
	カウンセリング	1	15			1	15		
	英語 I	1	30			1	30		
	英語 II	1	30					1	30
	文学	1	30					1	30
小計		14	345	19	210	2	45	3	90

分野	基礎分野	科学的思考の基礎
科目名	生物学	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	1 年前期	
担当教員名	村井 達生	
授業概要	生命の歴史に支えられ、生物環境（生態系）に適応して進化したものが生物である。近年、ヒトゲノム解析や遺伝子治療、iPS 細胞や再生医療といった「生物学」の目覚ましい進歩の時代となった。生命の根源に迫る謎を次々と解き明かし、生命現象の仕組みを分子レベルまで説明できるようになってきたことで、病気の予防や治療の方法も格段に進歩した。地球上の生物、この生命現象の共通性や特異性を理解し、生物と環境のかかわりから、生命の仕組みの素晴らしさと面白さを理解する。	
到達目標	1. 人間の起源と進化について理解する。 2. ヒトの身体の基本構造について理解する。 3. 細胞の活動と寿命について理解する。 4. ヒトの遺伝子について理解する。 5. ヒトの性と生殖について理解する。 6. 生命科学について具体例の中から理解する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> DP2 人間関係を築く能力 <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	生命体のつくりとはたらき	講義
2	生体維持のエネルギー	講義
3	細胞の増殖とからだのなりたち	講義
4	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ	講義
5	生殖と発生	講義
6	個体の調節	講義
7	刺激の受容と行動	講義
8	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	基礎分野生物学（医学書院）	
参考図書		

分野	基礎分野	科学的思考の基盤
科目名	生活科学	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年前期	
担当教員名	長 倫生	
授業概要	人間を取り巻く環境と日常生活における身近な現象の法則性を学び、医療・看護における物理学の基本原理と基礎知識を学ぶ。	
到達目標	1. 物理学の基本原理と思考方法を理解し、看護に必要な物理的基礎知識を理解する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> DP2 人間関係を築く能力 <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	身体/身体ケアに関する物理学① ・力学的根拠（力のつりあい、力の合成と分解）	講義
2	身体/身体ケアに関する物理学② ・体位変換の原理（浮力と回転力）・トルク	講義
3	身体/身体ケアに関する物理学③ ・サイフォンの原理	講義
4	身体/身体ケアに関する物理学演習① ・コーヒーサイフォン	演習
5	身体/身体ケアに関する物理学演習② ・胃洗浄とサイフォン	演習
6	身体/身体ケアに関する物理学④ ・体熱の産生と喪失	講義
7	検査・治療・処置に関する物理学① ・圧力の基礎知識 ・気圧	講義
8	検査・治療・処置に関する物理学② ・血圧に関する知識 ・血圧測定	講義 演習
9	検査・治療・処置に関する物理学③ ・ファイバースコープの原理（光）	講義
10	検査・治療・処置に関する物理学④ ・放射線のもつ特性と基礎知識	講義
11	検査・治療・処置に関する物理学⑤ ・電磁波 ・X 線 ・放射線同位元素	講義
12	身体/身体ケアに関する物理学演習③ ・体圧測定	講義 演習
13	検査・治療・処置に関する物理学演習① ・酸、アルカリと PH の関係	講義 演習
14	身体/身体ケアに関する物理学演習④ ・比熱 ・比熱測定	講義 演習
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	完全版 ベッドサイドを科学する（学研）	
参考図書		

分野	基礎分野	科学的思考の基盤
科目名	心理学	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年前期	
担当教員名	脇川 貴臣	
授業概要	人間を特徴づけるものは、脳の進化と密接な関係のある複雑な心理現象である。学習、記憶、知覚、動機づけ、感情、社会心理、ストレスをベースに心の法則を知り、心のはたらきの科学を学ぶ。人間理解と対人援助の基礎としての心理学を学ぶ。	
到達目標	1. 心理学の概要を知る。 2. 心理学の基本法則（感覚・知覚、学習と記憶、思考・言語・意識）を学ぶ。 3. 人間の行動（動機づけ、性格、対人関係）を学ぶ。 4. 発達と発達障害、知能について学ぶ。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	1 章 歴史と方法	講義
2	2 章 感覚と知覚：感覚について	講義
3	2 章 感覚と知覚：知覚について	講義
4	3 章 学習と記憶：学習とは、学習理論、古典的条件づけ	講義
5	3 章 学習と記憶：条件づけ（道徳的）観察学習、動機づけなど	講義
6	3 章 学習と記憶：動機づけ、記憶の過程の種類	講義
7	3 章 学習と記憶：記憶の変化 忘却の理解など	講義
8	4 章 思考・言語・意識：意識について	講義
9	4 章 思考・言語・意識：思考とは、言語とは	講義
10	5 章 動機づけ・情動	講義
11	5 章 動機づけ・情動：情動について 6 章 性格と人格	講義
12	7 章 対人関係、集団	講義
13	8 章 発達：発達とは、発達段階、発達の特徴（各発達段階）	講義
14	9 章 知能と智能検査：知能とは、知能検査の成立経過、知能検査の指数、知能障害	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	授業で配布する資料	
参考図書		

分野	基礎分野	科学的思考の基盤
科目名	論理学	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年前後期	
担当教員名	森 誠治	
授業概要	看護実践に必要なコミュニケーション能力、問題解決能力、科学的実践方法の基盤となる思考の筋道について学び、自分なりの考えを表現する演習を行う。また認識論の視点で立場の変換について学び、現象を意味づける考え方を習得する。	
到達目標	1. テキストを読み内容を整理することができる。 2. 論理的思考の考え方を理解することができる。 3. 考え方を知り、円錐モデルを活用し、表現することができる。 4. 認識論の視点で立場を変換することができる。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	他のテキストが読めるような力づくり	講義 演習
2		
3		
4	4つの考え方（上り下り、対比、因果関係、時間軸） 弁証法の三大法則（対立物の相互浸透、量質転化、否定の否定） 清拭の過程で起きている相互浸透	講義 演習
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14	認識論 （立場の変換、もう一人の自分、ナイチンゲールの三重の関心、あなたと私）	講義 演習
15	まとめ 筆記試験（50分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	授業で配布する資料	
参考図書		

分野	基礎分野	科学的思考の基盤
科目名	教育学	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	3 年後期	
担当教員名	曾我部 延孝（1～7 回） 武田 三花（8～14 回）	
授業概要	人間は教育により人間として生きていく。社会もまた教育された人間によって構成されている。人間を理解するうえで重要な要素である教育学を概観することを通して、主体的に課題を発見する力、学び続ける態度、社会で生きる力、看護の専門性を支える教養を身につける。また、臨床場面で遭遇する事例を活用し、健康教育について学ぶ。	
到達目標	1. 教育の定義・特質について理解できる。 2. 学校教育の歴史の変遷について、概要を理解できる。 3. 教育の場で日常的に使われる様々な用語の意味・定義を認識できる。 4. 現代教育の中で、自己の教育観をどう捉えるべきか考察できる。 5. 看護師が担う健康教育の目的と意義について理解できる。 6. 対象の合わせた健康教育を考えることができる。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	教育学の概説 「教育学を学ぶにあたって」 生活の中の教育学(1)	講義
2	家族と学校の関係「産業革命と近代学校の成立」 同(2)	講義
3	日本の公教育の成立と学校「戦前の学校と家族生活の変化」 同(3)	講義
4	現代日本の教育「戦後の昭和・平成・そして令和」 同(4)	講義
5	学校教育のあり方について考える(1)「早寝早起き朝ごはん」「食育」 同(5)	講義
6	学校教育のあり方について考える(2)「教育の情報化」「ai 教育」 同(6)	講義
7	学校教育のあり方について考える(3)「言語能力の育成」「国語教育」 同(7)	講義
8	健康教育が期待される背景・健康教育の目的	講義
9	健康教育の歴史と諸理論	講義
10	健康教育の事例設定の確認と指導の方向性の決定	講義
11	健康教育、指導案の作成	講義
12		演習
13	事例発表会：指導場面のロールプレイ	演習
14		
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	第 1 回～7 回（曾我部）：50 点 （筆記試験 30 点、授業記録 15 点 授業への参加度 5 点） 第 8 回～14 回（武田）：レポート 50 点	
テキスト	授業で配布する資料	
参考図書	基礎分野 教育学（医学書院）	

分野	基礎分野	人間と生活・社会の理解
科目名	キャリア入門	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	1 年前期	
担当教員名	前田 久恵・多賀久子	
授業概要	看護師はどのような仕事をしているのか、現実的なイメージを持ち、地域社会で看護師として活躍していくうえで必要な能力・資質について学ぶ。	
到達目標	1. 看護師として必要な能力・資質について理解し、自己の課題を明確にすることができる。 2. 医療に必要な接遇について理解し、意識して学校生活(日常生活)を送ることができる。 3. レポート・論文の書き方の基本を身に付けることができる。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	社会人基礎力とは 看護師に必要な社会人基礎力 看護師として必要な能力・資質について	講義
2	セルフコミュニケーションとは	講義
3	医療に必要な接遇について 接遇とは・傾聴の姿勢・メモの取り方・報告とは	講義 GW
4	相手とのコミュニケーション・チームビルディング	講義 GW
5	学び方を学ぶ 学習の進め方 学習とは	講義 GW
6	看護師としてのキャリアとは キャリアプラン	講義
7	レポート・論文の作成の基本	講義 GW
8	学校生活で活用する社会人基礎力とは	
成績評価の方法	合否	
テキスト	授業で配布する資料	
参考図書		

分野	基礎分野	人間と生活・社会の理解
科目名	情報リテラシー	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	1 年前期	
担当教員名	高山 善文	
授業概要	情報源を適切に利用し、散在する情報の中から必要な情報を収集し、発信するための能力を身につける。	
到達目標	1. 情報活用の基礎を理解する。 2. 情報に関するセキュリティや倫理に関する知識を身につける。 3. 情報を収集・整理・発信・伝達する力を習得する。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 <u>DP2 人間関係を築く能力</u> DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	情報の定義(情報とは・ICT とは)	講義
2	情報の定義 (情報化社会)、SNS の取り扱い (DVD 視聴・講義)	講義
3	情報処理 (Word Excel PowerPoint)	講義
4	情報処理 (Word Excel PowerPoint)	講義
5	文献とは	講義
6	文献検索	演習
7	文字情報の整理	講義
8	まとめ レポート作成	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	別巻 看護情報学 (医学書院)	
参考図書		

分野	基礎分野	人間と生活・社会の理解
科目名	人間関係論	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年前期	
担当教員名	菊地 碧	
授業概要	ケアとは対象への直接的な援助行為であり、ケアされるひととする人の中で相互作用を生み出す。看護行為の本質であるケアについてクラスメイトとの人間関係を通して学ぶ。	
到達目標	1. 人間および人間関係のあり方とその過程が理解できる。 2. 人間関係を円滑に保つさまざまな技法について学び、自己の成長と良好な対人関係に役立てることができる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	創造的な人間関係のためのワーク	講義
2	人間関係の不安	講義
3	創造的対話を考えるためのワーク	講義
4	他者・自分の全体をわかろうとするワーク	講義
5	創造的会話	講義
6	対話力をつける	講義
7	創造的対人関係について	講義
8	思春期の心理学	講義
9	同調圧力	講義
10	コラージュ	講義
11	コラージュ	講義
12	箱庭作り	講義
13	箱庭作り創造的対話	講義
14	自己評価 他者評価	講義
15	まとめ レポート作成	講義
成績評価の方法	レポート合否	
テキスト	ケアへの出発－援助のなかで自分が見える（医学書院） 授業で配布する資料	
参考図書		

分野	基礎分野	人間と生活・社会の理解
科目名	生活と社会学	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年前期	
担当教員名	曾我部 延孝	
授業概要	社会学の様々な領域の概要を理解するとともに、急激に変化する現代社会に必要な基本的知識を学ぶ。日常生活と社会の様子を新たな眼で捉えて、今後に生かせる言語能力を養う。	
到達目標	1. 様々な社会現象に対する「ものの見方・考え方」の基本的な原理が理解できる。 2. 社会学の様々な領域から学び得たことを受け入れて、自己の生活の中で「人間と社会」の関りについて考察し、言語能力を高めることができる。 3. 日常生活を政治・経済、文化、教育の視点から理解し、看護師を目指す自己の生き方について考えることができる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	「オリエンテーション」～生活と社会学の概要・領域・モノの見方等について～	講義
2	「家と家族」から考える① ～永遠のテーマ「家族って何だろうか」～	講義
3	「家と家族」から考える② ～現在の家族の現状～	講義
4	「食」から考える ～「食は、人を良くする」と書く	講義
5	「教育」から考える① ～学校はなぜできたのか～	講義
6	「教育」から考える② ～学校が普及して、子供と親の生活はどう変わるか～	講義
7	「音楽・歌」から考える ～産業革命は音楽・歌の世界を大きく変えていく～	講義
8	「スポーツ」から考える ～産業革命からスポーツの成立へ～	講義
9	「旅・観光」から考える① ～人はなぜ旅をするのだろうか～	講義
10	「旅・観光」から考える② ～「観光と宗教」人々はなぜ参拝するのか～	講義
11	「労働・職場」から考える① ～労働観、企業ネーミング例にみる職業観～	講義
12	「労働・職場」から考える② ～就業形態の多様化、働き方改革～	講義
13	「医療」から考える～医療従事者の勤務環境、患者とのコミュニケーション～	講義
14	「人権問題」から考える ～他者とともに生きる自分の生き方を見つめて～	講義
15	「まとめ」～授業記録、試験～	講義
成績評価の方法	筆記試験：60% 授業記録（毎回提出）：30% 授業への参加度：10%	
テキスト	授業で配布する資料	
参考図書	基礎分野 社会学（医学書院）	

分野	基礎分野	人間と生活・社会の理解
科目名	生涯発達論	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	脇川 貴臣	
授業概要	今日、社会的、経済的、文化的要因に影響され、ライフサイクルの各期の課題は遷延化し、成長発達に伴う様々な問題も複雑化してきている。人間にかかわり援助する役割を担う者は対象者の抱える目の前の訴えや問題の解決だけでなく、その人間としての存在意味を深くとらえつつ向き合うことが必要である。その為に、人間の発達過程を見つめることができる基礎的知識を学ぶ。	
到達目標	1. 人間を発達し続ける存在として理解する。 2. 「発達の課題」と「発達の障害」について理解する。 3. 発達段階別の特徴を理解する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	新生児、乳児の知覚発達・運動発達：視覚、聴覚、運動の発達...反射から随意運動へ	講義
2	知覚から認識への発達：まとめり知覚、意味理解...信号と物語、信号の発生過程	講義
3	人間関係の発達：愛着行動の発達、基本的生活習慣の獲得	講義
4	人間関係の発達 2：遊びの定義と機能の発生条件、仲間との遊びの発達	講義
5	学習：動機づけ（内発的・外発的動機づけ）と原因帰属 学習障害...注意欠陥/多動性障害	講義
6	他者との関係：自他の理解と自律、孤立...青年期中年期老年期の孤独感の構造	講義
7	自己意識の発達：事故の対象化、自己比較、高齢者の時間的比較の意義 適応障害：自己効力感、有能感 職業不適応...アイデンティティとモラトリアム	講義
8	まとめ	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	授業で配布する資料	
参考図書		

分野	基礎分野	人間と生活・社会の理解
科目名	カウンセリング	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	吉川 優子	
授業概要	カウンセリングは、単なる心の治療や問題解決の方法ではなく、人が人生の様々な問題に取り組み、自分自身を見つめることを通して自己成長を果たしていくプロセスを支える援助的人間関係である。そこで、対人援助におけるケアの実践のために、具体的方法としてカウンセリングを学ぶ。	
到達目標	1. カウンセリングの具体的技法を理解する。 2. 人間関係を共感的に理解でき、援助的人間関係を形成できる。 3. 自分の視点からだけでなく、相手の立場から自分自身のあり方に気づくことができる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	カウンセリングとは	講義
2	傾聴の技術	講義
3	傾聴の技術	演習
4	自己理解と心の健康	講義
5	カウンセリング技法 フォーカシング	講義
6	カウンセリング技法 解決思考アプローチ、	演習
7	カウンセリング技法 アサーション	演習
8	まとめ レポート作成	講義
成績評価の方法	レポート 100 点	
テキスト	人生にいかすカウンセリングー自分を見つめる 人とつながる (有斐閣) 授業で配布する資料	
参考図書		

分野	基礎分野	人間と生活・社会の理解
科目名	英語 I	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	小口 順子	
授業概要	外国人患者を前に、流暢でなくても意思疎通を図る「姿勢」を大切にする授業を展開する。問診、バイタルサインチェック、検査など看護業務の流れにそって、基礎的な医療専門用語と看護の場面で使える表現を習得する。	
到達目標	臨床の場面で実際に使われる語彙・表現・発音を学び、看護場面でのコミュニケーション力の基礎を身につける。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
	授業計画	
回数	授業内容	授業形態
1	オリエンテーション Chapter1 初対面の対応、Chapter3 患者のプロフィール	講義
2	Chapter3 患者のプロフィール	講義
3	Chapter2 症状	講義
4	Chapter2 症状	講義
5	Chapter4 病歴と生活習慣（既往歴・家族歴・生活習慣の聴取）	講義
6	Chapter4 病歴と生活習慣（既往歴・家族歴・生活習慣の聴取）	講義
7	Chapter1 診療科名・院内案内	講義
8	Chapter5 病棟内オリエンテーション	講義
9	Chapter6 日常生活動作（ADL 介助時の説明）	講義
10	Chapter7 バイタルサイン	講義
11	Chapter8 検査と処置	講義
12	Chapter8 検査と処置	講義
13	Chapter9 処方箋の管理	講義
14	Chapter10 退院時の指導	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	看護英語テキスト『Nursing English in Action 第 2 版』（NPO 法人プロフェッショナルイングリッシュコミュニケーション協会）	
参考図書		

分野	基礎分野	人間と生活・社会の理解
科目名	英語Ⅱ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	3 年後期	
担当教員名	小久保英子・柳川 伸子・齊藤 夕美	
授業概要	英語Ⅰで学習した英会話の基礎を発展させ、臨床場面で必要な看護英語を学ぶ。	
到達目標	1. 看護に必要な英会話の基本を習得する。 2. 医学・看護用語を学び地域における英会話を習得する。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	フォニックス 1・基本文法 SVC,SVO・Lesson1-A, 1-B	講義
2	フォニックス 2・基本文法助動詞&命令形・Lesson2-A, 2-B	講義
3	フォニックス 3・基本文法疑問文・Lesson3-A, 3-B	講義
4	フォニックス 4・基本文法完了形・Lesson5-A, 5-B	講義
5	フォニックス 5・基本文法代名詞・Lesson7-A, 7-B	講義
6	フォニックス 6・基本文法 when, if, there is(are)・Lesson6-A, 17-B, 22-B	講義
7	Lesson15-A, 15-B・基本文法否定文	講義
8	Lesson16-A, 16-B・場所案内の基本表現	講義
9	Lesson18-A, 18-B・基本文法 will, let の使い方	講義
10	Lesson20-A, 入院時のその他表現・基本文法「～する」「～すること」の使い方	講義
11	Lesson19-B, 症状の確認や検査説明に関するロールプレイング	講義
12	入院～退院までの基本会話をロールプレイング	講義
13	災害時の避難所での会話 1 (プリント)	講義
14	災害時の避難所での会話 2 (プリント)	講義
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	看護英会話入門第 3 版医学書院	
参考図書		

分野	基礎分野	人間と生活・社会の理解
科目名	文学	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	3 年後期	
担当教員名	亀有 碧	
授業概要	本授業では、家事、育児、介護など、特定の人々を無償でケアする「再生産労働」の現場を描く現代日本の小説を取りあげ、その時代背景と表現の特質を学習する。近代以降、再生産労働は家族、とくに主婦女性たちによって中心的に担われてきたが、多くの場合それは取るに足らない、だれにでもできる営為として、ないがしろにされてきた。一方で、1970 年代後半ごろからは家族の形態が変容し、主婦だけではない多様な社会的階層が、セルフケアを含む再生産労働を担いはじめている。このような現代において、人が他者あるいは自己をケアする営為はどのように描かれ、また価値づけられてきたのだろうか。これまでの 3 年間の学習や実習をとおして得られた、有償のケア労働である看護にかんする知見も参照しながら、考えてみたい。	
到達目標	1. 文学の歴史を知る。 2. 作品の解釈の方法を身につける。 3. 作品の読後感を述べることができる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	イントロダクション・現代における家族の変容——干刈あがた「樹下の家族」	講義
2	イントロダクション・現代における家族の変容——干刈あがた「樹下の家族」	講義
3	家族を飛びだす女性たち——森瑤子「熱い風」	
4	家族を飛びだす女性たち——森瑤子「熱い風」	講義
5	独身女性のすがた——稲葉真弓「声の娼婦」	
6	独身女性のすがた——稲葉真弓「声の娼婦」	講義
7	猫を飼う夫婦のすがた——保坂和志「生きる歓び」	
8	猫を飼う夫婦のすがた——保坂和志「生きる歓び」	講義
9	兼業主婦のすがた——山本文緒「どこかではないここ」	
10	兼業主婦のすがた——山本文緒「どこかではないここ」	講義
11	独身者たちのコミュニティ——星野智幸「毒身帰属」	
12	独身者たちのコミュニティ——星野智幸「毒身帰属」	講義
13	国境を超えた、再生産労働者たちのコミュニティ——岩城けい「さようならオレンジ」	
14	国境を超えた、再生産労働者たちのコミュニティ——岩城けい「さようならオレンジ」	講義
15	レポート作成	講義
成績評価の方法	レポート 100 点	
テキスト	授業で配布する資料	
参考図書		

Ⅱ 専門基礎分野

目的

人間の生命活動の仕組み、疾病の成り立ちと回復過程、人々の健康を支えるための国の施策や体制、社会資源とその活用方法を理解し、看護実践に活用する基礎的能力を養う。

目標

1. 人体の構造と機能を理解する。
2. 疾病の成り立ちと回復の過程を系統的に理解する。
3. 人々が健康や障害の状態に応じて活用できる社会資源や、関連する職種の役割を理解する。

科目の構成・計画

教育内容	科目名	単位(時間)		第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年	
人体の構造と機能	人体構造Ⅰ	1	30	1	30				
	人体構造Ⅱ	1	30	1	30				
	人体機能Ⅰ	1	30	1	30				
	人体機能Ⅱ	1	30	1	30				
	形態機能学Ⅰ	1	15	1	15				
	形態機能学Ⅱ	1	15			1	15		
	生化学	1	30	1	30				
	栄養学	1	15	1	15				
疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学	1	30	1	30				
	病態論Ⅰ	1	30	1	30				
	病態論Ⅱ	1	30	1	30				
	病態論Ⅲ	1	30	1	30				
	病態論Ⅳ	1	30	1	30				
	薬理学	1	30	1	30				
	感染と免疫	1	30	1	30				
	臨床治療論	1	30			1	30		
健康支援と社会保障制度	医療情報学	1	15			1	15		
	健康と生活を支えるシステム	1	20					1	20
	公衆衛生学	1	15					1	15
	看護をとりまく法律	1	30					1	30
	社会福祉論	1	15					1	15
	癒しの科学	1	30					1	30
小 計		22	560	14	390	3	60	5	110

分野	専門基礎分野	人体の構造と機能
科目名	人体構造 I	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年前期	
担当教員名	川井 一廣	
授業概要	からだの構造は、機能の複雑さと神秘的側面を持ち、厳格な規則性と調和により維持されている。その身体の構造の基礎知識を理解することは、人間の健康あるいは健康障害から看護を实践するためには不可欠な要素である。また、解剖学的視点から人間を理解することをねらいとする。人体構造 I では身体の構造の基本となる骨格・関節・筋肉と循環について学ぶ。	
到達目標	1. 人体の解剖学的用語を理解する。 2. 人体を支える、骨・関節・筋肉と循環器系の形態と構造について理解する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> DP2 人間関係を築く能力 <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	解剖学総論	講義
2	骨・関節総論	講義
3	骨Ⅱと関節 資柱・胸郭	講義
4	骨Ⅲと関節 骨盤・上肢	講義
5	骨Ⅳと関節 下肢・頭蓋	講義
6	筋Ⅰ 総論 胸部・腹部	講義
7	筋Ⅱ 上肢・下肢	講義
8	筋Ⅲ 頭 循環器Ⅰ 総論	講義
9	循環器Ⅱ 心臓・肺循環	講義
10	循環器Ⅲ 体循環 動脈系Ⅰ	講義
11	動脈系Ⅱ 静脈系Ⅰ 皮静脈	講義
12	静脈系Ⅱ 硬膜静脈洞・門脈・奇静脈 胎児の血液循環	講義
13	胎児の血液循環 内臓学総論 消化器Ⅰ	講義
14	消化器Ⅱ	講義
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)	
参考図書		

分野	専門基礎分野	人体の構造と機能
科目名	人体構造 II	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年前期	
担当教員名	川井 一廣	
授業概要	人体構造 I で学んだからだの構造を基にそれぞれの臓器のかたちや大きさ・特徴や働きを知り、人間が生きていくためにそれらが機能していることを理解する。	
到達目標	1. 消化器系・呼吸器系・生殖器系・脳神経系臓器の形態と構造を正しく理解する。 2. 人体の各臓器を立体的に正しく理解することができる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> DP2 人間関係を築く能力 <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	内蔵 消化器系 胃	講義
2	消化器系 小腸・大腸	講義
3	消化器系 肝臓・膵臓	講義
4	呼吸器系 鼻腔から肺	講義
5	呼吸器系 肺 泌尿器系	講義
6	男性生殖器系・女性生殖器系	講義
7	女性生殖器系 神経系 総論	講義
8	髄膜 脊髄、脊髄神経の基本構成	講義
9	脊髄神経	講義
10	脳 延髄、橋、中脳、小脳	講義
11	脳 間脳、大脳半球	講義
12	脳神経 自律神経	講義
13	自律神経 伝導路	講義
14	感覚器	講義
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)	
参考図書		

分野	専門基礎分野	人体の構造と機能
科目名	人体機能 I	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年前期	
担当教員名	後藤 なおみ	
授業概要	人間が生きている、生きていく状態とはどういうことかを理解する。また外界刺激の受容のしくみと刺激に応じた反応のしくみを理解する。	
到達目標	1. 細胞の構造と機能、体液・血液について理解する。 2. 生体の防御機構、体温とその調節について理解する。 3. 呼吸・循環、身体の調節機能、筋肉運動のしくみを理解する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> DP2 人間関係を築く能力 <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	細胞の構造 ・ A T P の生産 ・ 核酸とタンパク質の合成 細胞の機能 ・ 酸素 ・ 受容体 ・ 輸送体	講義
2	体液とホメオスタシス ・ 血液 ・ 血液の組織 ・ 赤血球 ・ 白血球	講義
3	血液 ・ 血小板 ・ 血漿タンパク質 ・ 血液凝固 ・ 血液型	講義
4	生体の防御機構 ・ 非特異的防御機構 ・ 特異的防御機構（免疫）	講義
5	生体の防御機構 ・ 免疫 生体防御の関連臓器 ・ リンパ節 ・ 胸腺 ・ 脾臓	講義
6	体温とその調節 ・ 調節中枢 ・ 熱生産、放散 筋力の収縮	講義
7	骨格筋収縮の種類と特性 不随意筋の収縮の特徴	講義
8	呼吸器の構造・生理 ①内呼吸、外呼吸 ②呼吸運動 ③呼吸器量	講義
9	呼吸器中枢 肺胞の機能、ガス交換	講義
10	循環器 ・ 体循環、肺循環 ・ 心臓の拍動 ・ 心電図 ・ 不整脈	講義
11	血圧とは 血液の循環 血圧・血液量の調節 神経による心臓や血液の働きの調整	講義
12	内蔵機能の調節・自律神経による調節・内分泌系による調節・内分泌とホルモン	講義
13	内分泌系による調節・内分泌の伝わり方とホルモンの特徴・化学構造・作用機序・視床下部ホルモン・下垂体ホルモン	講義
14	甲状腺ホルモン 副腎皮質・髄質ホルモン 性腺 上皮小体	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	人体の構造と機能〔1〕解剖生理学（医学書院） 解剖生理をおもしろく学ぶ（サイオ出版）	
参考図書		

分野	専門基礎分野	人体の構造と機能
科目名	人体機能 II	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年前期	
担当教員名	後藤 なおみ	
授業概要	からだが恒常性を維持してゆくためにはホルモンによる体液を通じた調節と、直接的な反応を引き起こす神経による調節とがあり、その調節機構によって栄養・酸素をとり入れ、代謝し老廃物を排泄するという働きが守られている。各々の働きとそれを担う臓器について学び、人間の生きている状態を理解する。	
到達目標	1. 内分泌系、消化器系、腎泌尿器系、生殖器系の各機能について理解する。 2. 神経系の調節機能について理解する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	膵臓 ホルモン分泌の調整 ホルモンによる調節の実際	講義
2	栄養と消化と吸収 口・咽頭・食道の機能 胃における消化	講義
3	小腸における消化 栄養の消化吸収 大腸の機能	講義
4	肝臓の機能	講義
5	膵臓・胆嚢の機能	講義
6	体液の調節と尿の生成 ・尿生成のメカニズム ・クリアランスと糸球体濾過量 ・腎臓から分泌される生理活性部室	講義
7	排尿路 ・尿の貯蔵と排尿 体液の調節 ・水分の出納	講義
8	生殖・発生と老化の仕組み 男性の生殖機能 女性の生殖機能 胎児の循環	講義
9	情報の受容と処理 神経系の機能	講義
10	脊髄と脳・脳幹・間脳の機能・大脳新良質・古良質・基底核の機能	講義
11	脳幹・小脳・間脳・大脳の機能・大脳基底核の機能・脳脊髄液の機能	講義
12	脊髄神経の機能	講義
13	末梢神経・脳神経・自律神経	講義
14	睡眠・本能行動と情動行動	講義
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院) 解剖生理をおもしろく学ぶ (サイオ出版)	
参考図書		

分野	専門基礎分野	人体の構造と機能
科目名	形態機能学 I	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	1 年前期	
担当教員名	加藤 奈津江	
授業概要	日々の生活を支えるためのケアをするには、病気の解明を目的とする医学の枠組みから体を理解するだけでは不足である。看護の主眼は、病んだときにも健やかなときにも、毎日繰り返されている日常生活行動を支えることである。日常生活を作り上げている、食べること、トイレに行くこと、眠ること等の生活行動はすべてからだの働きのうえに成り立っている。からだがどのようにこれらを成し遂げているかを理解する。	
到達目標	1. 生きているとはどういうことか理解する。 2. 日常生活行動のしくみが理解できる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	人体の構造と機能を学ぶために 1.人体の構造と機能についてなにを学ぶか 2.看護専門職として人体の構造と機能を学ぶ意義、 解剖学と生理学の歴史と現在 第 1 章人体の構造と機能総論 1 解剖生理学を学ぶための基礎知識 1.人体とはどのようなものか 2.人体の素材としての細胞・組織 3.構造と機能からみた人体	講義
2	食べる———消化器系 第 2 章 栄養の消化と吸収 1.口・咽頭・食道の構造と機能 2.腹部消化管の構造と機能 3.膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 4.腹膜	講義
3	息をする———呼吸器系 第 3 章 呼吸のはたらき 1.呼吸器の構造 2.呼吸 1)内呼吸と外呼吸 2)呼吸器と呼吸運動 3)呼吸気量 4)ガス交換とガスの運搬 5)肺の循環と血流	講義
4	流れる———血液 1)血液の組成と機能 2)赤血球 3)白血球 4)血小板 5)血液凝固 6)侵入物に対する防御	講義
5	流通の原動力———循環器系 第 4 章 血液の循環とその調節 1.循環器系の構成 2.心臓の構造 3.心臓の拍出機能 4.末梢循環系の構造	講義
6	トイレに行く———泌尿器系 第 5 章 体液の調節と尿の生成 1.腎臓 2.排尿路 3.体液の調節	講義
7	保つ———恒常性維持 1.神経性調節 2.液性調節	講義
8	まとめ 筆記試験 (50 分)	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	看護形態機能学 生活行動からみるからだ (日本看護協会出版会)	
参考図書	解剖生理をおもしろく学ぶ (サイオ出版) 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)	

分野	専門基礎分野	人体の構造と機能
科目名	形態機能学Ⅱ	
単位／時間数／授業回数	1単位／15時間／8回	
開講時期	2年後期	
担当教員名	木村 京子	
授業概要	正常な人体のはたらきが、病因・病態学的変化により、症状や機能障害として出現することを理解する。実習での経験と科学的知識を結び付けて学習し、看護学的視点で疾病を理解し、臨床判断のための基礎的能力を養う。	
到達目標	1. 対象に生じた健康障害・症候に気づき、そのメカニズムを理解する。 2. 対象に異常が生じた部位の、本来の恒常性を保つメカニズムを理解する。 3. 対象に生じた症候や健康障害について科学的根拠をもって説明できる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	実習の振り返り 対象に生じた健康障害・症候についての情報の抽出	演習
2	正常な人体の構造・機能についての理解	演習
3	生命維持に必要な日常生活行動の理解	演習
4	生命維持に必要な日常生活行動の理解	演習
5	対象に生じた病因・病理学的変化と健康障害・徴候のメカニズムの理解	演習
6	対象に生じた病因・病理学的変化と健康障害・徴候のメカニズムの理解	演習
7	グループ発表	演習
8	リフレクション レポート	演習
成績評価の方法	成果物 可否	
テキスト		
参考図書	看護形態機能学 生活行動からみるからだ（日本看護協会出版会） 解剖生理をおもしろく学ぶ（サイオ出版） 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）	

分野	専門基礎分野	人体の構造と機能
科目名	生化学	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年前期	
担当教員名	武野 大策	
授業概要	生体は細胞より微細な構造から成り立っており、生体分子・元素からできている。すなわち器官系、臓器、組織をふまえて生体分子・元素へと階層性をもってつくられていることを学ぶ。生命活動を維持・調節する生体の最小単位である細胞の働きを物質の出入り、細胞呼吸、糖、蛋白、脂質代謝、また遺伝について学び、生命科学の基礎を学ぶとともに、生化学は解剖生理学とも融けあい連続しあっていることを理解する。さらに医療や看護が行なう行為はこの生命の仕組みの上に成り立ち、その働きを促進するものであることを理解する。	
到達目標	1. 栄養と代謝、代謝産物の排泄について理解する。 2. 遺伝のしくみについて理解する。	
DP と の 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	人体の構造と機能では何をやるか 人体への階層性 細胞とは 生体を構成する物質 糖質	講義
2	生体を構成する物質 脂質 タンパク質	講義
3	生体を構成する物質 核酸 無機質	講義
4	内臓機能の調節 自律神経による調節 内分泌系による調節 ホルモンの種類と作用機序	講義
5	生体を構成する物質 ビタミン各論	講義
6	代謝 異化と同化	講義
7	糖質代謝 血糖値の調節	講義
8	脂質代謝	講義
9	脂質代謝 脂肪の消化、吸収、運搬	講義
10	タンパク質代謝	講義
11	アミノ酸の分解 尿素回路	講義
12	遺伝情報 遺伝子、DNA とは 複製とは	講義
13	核酸の代謝 リボ酸の代謝	講義
14	転写 翻訳 生合成後の修復 DNA の指傷と修復 ポルフィリン代謝	講義
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	人体の構造と機能 [2] 生化学 (医学書院)	
参考図書	人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)	

分野	専門基礎分野	人体の構造と機能
科目名	栄養学	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	武田 三花	
授業概要	日常生活の中で摂取する飲食物には、どのような栄養素や種類が含まれているのか、またそれら栄養素の体内での役割と代謝について学び、一日に摂取すべき量と、どんな食品をどう調理して、どの程度摂取するのかを知り、健康的な食生活について理解する。	
到達目標	1. 栄養素の種類、意義が理解できる。 2. ライフサイクルに応じた栄養のあり方が理解できる。 3. 臨床栄養の意義と食事療法が理解できる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> DP2 人間関係を築く能力 <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	栄養と代謝、エネルギー発生と三大栄養素、アトウォーター係数、栄養アセスメントの方法	講義
2	炭水化物の種類と構成、消化吸収、血糖の調節、蛋白質の種類と構成、必須アミノ酸、蛋白質の消化吸収、必須アミノ酸	講義
3	脂肪の構成成分と消化吸収、脂肪酸の種類、リポ蛋白、コレステロール	講義
4	ビタミン、ミネラルと食品、過剰・欠乏のリスク、胃の内因子と悪性貧血、巨赤芽球貧血、	講義
5	栄養マネジメント、「日本人の食事摂取基準」、ライフステージと栄養、妊娠・授乳期の栄養、離乳食	講義
6	疾患と栄養、病態別栄養、メタボリックシンドローム ロコモティブシンドローム、フレイル、	講義
7	食物形態、非経口栄養法	講義
8	まとめ 筆記試験 (50 分)	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト		
参考図書	人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院) 人体の構造と機能 [3] 栄養学 (医学書院)	

分野	専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進
科目名	病態生理学	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	出雲 俊之	
授業概要	患者への援助を行う上で、患者の身体に起きている異常と、その異常が引き起こす苦痛や障害が起こる仕組みの理解は不可欠である。 人体構造・人体機能の知識を基礎とした上で、病的な状態の身体に起きている異常な変化によって症状や徴候が生じる仕組みを理解する。	
到達目標	1. 人体の生理機能に異常をきたす仕組みについて理解できる。 2. 生理機能の異常から起こる症状・徴候や疾病の病態生理が理解できる。	
DP と の 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> DP2 人間関係を築く能力 <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	病態生理学とは 正常と病気の状態 循環障害 細胞・組織の状態	講義
2	感染症 腫瘍 先天異常と遺伝子異常 老化と死	講義
3	皮膚・体温調節のしくみと病態生理	講義
4	免疫のしくみと病態生理	講義
5	体温調節のしくみと病態生理	講義
6	血液のはたらきと病態生理	講義
7	循環のしくみと病態生理	講義
8	呼吸のしくみと病態生理	講義
9	消化・吸収のしくみと病態生理	講義
10	腎・泌尿器のしくみと病態生理	講義
11	内分泌・代謝のしくみと病態生理	講義
12	生殖のしくみと病態生理	講義
13	脳・神経・筋肉のはたらきと病態生理	講義
14	感覚器のしくみと病態生理	講義
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	疾病のなりたちと回復の促進[2]病態生理学 (医学書院)	
参考図書	人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)	

分野	専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進
科目名	病態論 I	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	後藤 なおみ	
授業概要	疾病による構造・機能の変化、症状や機序について理解し、看護実践の基盤として必要とされる知識を学ぶ。呼吸器、循環器系の特徴的な疾患について病態生理、症状、検査と治療・処置について基礎知識を学ぶ。	
到達目標	1. 呼吸器・循環器系の機能障害による症状とその病態生理が理解できる。 2. 呼吸器・循環器系の主な検査と治療・処置が理解できる。 3. 呼吸器・循環器系の主要な疾患が理解できる。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	呼吸機能障害の概要 症状とその病態生理	講義
2	呼吸器の検査と治療処置	講義
3	呼吸器の検査と治療処置	講義
4	呼吸器疾患 炎症性疾患 気管支喘息	講義
5	呼吸器疾患 慢性閉塞性肺疾患（COPD） 肺循環障害	講義
6	呼吸器疾患 肺結核 気胸	講義
7	呼吸器疾患 腫瘍 酸塩基平衡の異常	講義
8	循環機能障害の概要 症状とその病態生理	講義
9	循環器の検査と治療処置	講義
10	循環器の検査と治療処置	講義
11	循環器疾患 先天性疾患・虚血性心疾患 心筋症 心不全	講義
12	循環器疾患 心タンポナーデ 不整脈 炎症性疾患 弁膜症	講義
13	循環器疾患 大動脈瘤 大動脈解離 閉塞性動脈硬化症 挫滅症候群 下肢静脈瘤 深部静脈血栓症	講義
14	循環器疾患 動脈硬化 血圧異常 ショック	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	成人看護学 [2] 呼吸器（医学書院） 成人看護学 [3] 循環器（医学書院）	
参考図書		

分野	専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進
科目名	病態論Ⅱ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	藤村 作（1～4） 榎本 信行（5～7） 森本 昇司（7～14）	
授業概要	疾病による構造・機能の変化、症状や機序について理解し、看護実践の基盤として必要とされる知識を学ぶ。消化器、内分泌系の特徴的な疾患について病態生理、症状、検査と治療・処置について基礎知識を学ぶ。	
到達目標	1. 消化器、内分泌・代謝系の機能障害による症状とその病態生理が理解できる。 2. 消化器、内分泌・代謝系の主な検査と治療・処置が理解できる。 3. 消化器、内分泌・代謝系の主要な疾患が理解できる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> DP2 人間関係を築く能力 <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	消化機能障害の概要 症状とその病態生理	講義
2	消化器の検査と治療処置	講義
3	上部消化管の疾患 炎症性疾患 潰瘍性疾患 腫瘍	講義
4	下部消化管の疾患 炎症性疾患 イレウス 腫瘍 排便障害	講義
5	肝臓・胆嚢の疾患 炎症性疾患 肝硬変 腫瘍 脂肪肝 アルコール性肝炎 胆石症	講義
6	膵臓の疾患	講義
7	腹壁・腹膜の疾患 鼠径ヘルニア 腹膜炎	講義
8	内分泌・代謝機能障害の概要 症状とその病態生理	講義
9	内分泌・代謝の検査と治療処置	講義
10	内分泌・代謝の検査と治療処置	講義
11	内分泌・代謝器疾患 甲状腺疾患 副甲状腺疾患	講義
12	内分泌・代謝器疾患 副腎皮質・髄質疾患 腫瘍	講義
13	内分泌・代謝器疾患 メタボリックシンドローム 肥満症 糖尿病	講義
14	内分泌・代謝器疾患 脂質異常症 高尿酸血症 痛風	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点 （消化器 50 点（藤村 30 点・榎本 20 点）（内分泌代謝 50 点）	
テキスト	成人看護学 [5] 消化器（医学書院） 成人看護学 [6] 内分泌・代謝（医学書院）	
参考図書		

分野	専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進
科目名	病態論Ⅲ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	今村 恵一郎（1～4） 関根 威（5～10） 土岐 幸子（11～14）	
授業概要	疾病による構造・機能の変化、症状や機序について理解し、看護実践の基盤として必要とされる知識を学ぶ。運動器、脳神経、感覚器系の特徴的な疾患について病態生理、症状、検査と治療・処置について基礎知識を学ぶ。	
到達目標	1. 運動器、脳神経、感覚器系の機能障害による症状とその病態生理が理解できる。 2. 運動器、脳神経、感覚器系の主な検査と治療・処置が理解できる。 3. 運動器、脳神経、感覚器系の主要な疾患が理解できる。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	運動機能障害の概要 症状とその病態生理	講義
2	運動器系の検査と治療処置	講義
3	運動器疾患 骨折 骨粗鬆症 腫瘍 変形性関節症	講義
4	運動器疾患 腰痛症 炎症性疾患 脊髄損傷	講義
5	脳神経機能障害の概要 症状とその病態生理	講義
6	脳神経系の検査と治療処置	講義
7	脳神経系の検査と治療処置	講義
8	脳神経疾患 脳血管障害 頭蓋内圧亢進症	講義
9	脳神経疾患 変性疾患 脱髄疾患 認知症 感染症 てんかん 腫瘍	講義
10	脳神経疾患 ギランバレー症候群 圧迫性神経障害 顔面神経麻痺 自律神経失調症 筋ジストロフィー 重症筋無力症	講義
11	感覚機能障害 ① 視機能障害の概要 症状・検査・治療	講義
12	感覚機能障害 ② 皮膚感覚機能障害の概要 症状・検査・治療	講義
13	感覚機能障害 ③ 聴覚障害の概要 症状・検査・治療	講義
14	感覚機能障害 ④ 口腔・咽喉頭疾患の概要 症状・検査・治療	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点 （運動器 30 点 脳神経 40 点 感覚器 30 点）	
テキスト	成人看護学〔7〕脳・神経（医学書院） 成人看護学〔10〕運動器（医学書院） 成人看護学〔12〕皮膚（医学書院） 成人看護学〔13〕眼（医学書院） 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉（医学書院）	
参考図書		

分野	専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進
科目名	病態論Ⅳ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	後藤 なおみ（1～7） 上尾中央総合病院医師（8～14）	
授業概要	疾病による構造・機能の変化、症状や機序について理解し、看護実践の基盤として必要とされる知識を学ぶ。免疫、血液、腎泌尿器系の特徴的な疾患について病態生理、症状、検査と治療・処置について基礎知識を学ぶ。	
到達目標	1. 血液・造血器、免疫、腎泌尿器系の機能障害による症状とその病態生理が理解できる。 2. 血液・造血器、免疫、腎泌尿器系の主な検査と治療・処置が理解できる。 3. 血液・造血器、免疫、腎泌尿器系の主要な疾患が理解できる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> DP2 人間関係を築く能力 <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	血液・造血器・免疫機能障害の概要 症状とその病態生理	講義
2	血液・造血器・免疫の検査と治療処置	講義
3	血液・造血器・免疫の検査と治療処置	講義
4	血液・造血器疾患 貧血 白血球減少症 出血性疾患	講義
5	血液・造血器疾患 白血病 悪性リンパ腫 多発性骨髄腫	講義
6	免疫疾患 全身性エリテマトーデス（SLE）関節リウマチ シェーグレン症候群	講義
7	免疫疾患 アレルギー性疾患 敗血症 ヒト免疫不全ウイルス感染症	講義
8	腎泌尿器機能障害の概要 症状とその病態生理	講義
9	腎泌尿器の検査と治療処置	講義
10	腎泌尿器の検査と治療処置	講義
11	腎泌尿器疾患 水・電解質の異常 脱水 浮腫	講義
12	腎泌尿器疾患 腎炎 慢性腎臓病 腎盂腎炎 膀胱炎	講義
13	腎泌尿器疾患 腫瘍	講義
14	腎泌尿器疾患 腎・尿路結石 排尿障害 腎不全	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 （血液・造血器・免疫 50 点 腎・泌尿器 50 点）	
テキスト	成人看護学 [4] 血液・造血器（医学書院） 成人看護学 [11] アレルギー・膠原病・感染症（医学書院） 成人看護学 [8] 腎・泌尿器（医学書院）	
参考図書		

分野	専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進
科目名	薬理学	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	笹川 展幸	
授業概要	薬と薬物療法の歴史・医薬品の法的規制と、薬物の体内動態や、作用機序を学ぶ。 また各種治療における薬品の作用目的や副作用について学習し、効果判定、副作用の早期発見のための観察、また薬効を効果的に発現するための生活の注意点について学ぶ。	
到達目標	1. 薬理学の概念と医薬品と法令について理解できる。 2. 薬理学に関する基礎的事項が理解できる。 3. 各種製剤と処方について学ぶ。 4. 各器官、系統別に作用する薬物の作用機序及び副作用について理解できる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> DP2 人間関係を築く能力 <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	薬理学とは 薬の由来と歴史（アスピリン、アトロピレ、クラーレ等） 毒について クロードベルナル、パラケルススの紹介	講義
2	濃度の重要性（濃度反応曲線、EC ₅₀ LD ₅₀ 治療経路） 薬物・毒物の作用点について 細胞の情報伝達機構（内分泌、シナプス伝導、オートコイド導）	講義
3	受容体の種類 agonist と autagoust セカンドメッセンジャー 酵素阻害薬 チャネルの構造と機能 イオンの不均一な分布 ポンプ 取り込み機構	講義
4	薬の使用目的 医薬品の法令 薬の吸収と分布、代謝、排泄	講義
5	薬の投与経路 血液脳関門 血中の輸送蛋白質 薬物代謝 薬物の体内動態	講義
6	薬効に影響を及ぼす因子について 薬の有害作用 副作用 発がん性 催奇形性 等 薬効と生体リズム 時間薬理学	講義
7	化学療法 抗生物質 抗がん薬	講義
8	抗炎症薬 非ステロイド薬 ステロイド薬	講義
9	抗アレルギー薬 免疫と薬 痛風治療薬	講義
10	糖尿病治療薬 血液と薬 気管支喘息治療薬 去痰薬	講義
11	自律神経に作用する薬物 アドレナリン作動等 抗アドレナリン作動薬 抗コリン作動薬 コリン作動薬 筋弛緩薬 筋遮断薬	講義
12	消化器系の疾患とその治療薬 消化性潰瘍 嘔吐薬 健胃消化薬 利胆薬	講義
13	循環器系と治療薬 抗高血圧症 狭心症薬 抗不整脈薬 強心薬 利尿薬	講義
14	中枢神経に作用する薬物全般	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学（医学書院）	
参考図書		

分野	専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進
科目名	感染と免疫	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年前後期	
担当教員名	福本 皇	
授業概要	病原微生物による感染症について、感染源である微生物の種類や特徴また感染経路を学び、それらの感染を防ぐための方法を学ぶ。また生体の防御のしくみとしての体表面の働きや、免疫機構について知り、医療現場における感染防止対策の根拠を学ぶ。	
到達目標	1. 病原微生物（細菌・ウイルス・真菌・原虫）の概要と分類について理解する。 2. 感染と発病について理解する。 3. 免疫学の重要性について理解する。 4. 院内感染対策として消毒・滅菌法について理解する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> DP2 人間関係を築く能力 <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	抗体の種類と構造 細菌の増殖形態 細菌の特徴 微生物概要 好気性と嫌気性 重症感染症	講義
2	2 次免疫と 3 次免疫 好塩基球と肥満細胞 抗体とアレルギー	講義
3	感染の成立と感染経路 感染と消毒 ベクターについて	講義
4	細菌の特徴 真菌の特徴 手指の消毒 ウイルスの特徴 食中毒（細菌性／ウイルス性）	講義
5	改正感染症新法について 感染部位毎の特徴 予防免疫 ワクチンの種類 日和見感染 院内感染について	講義
6	微生物学に対するレポート 健康と疾病に関する概論 生物学—生体恒常性維持機構に関して	講義
7	生体防御学 常駐細菌叢について 第 1 次バリアー（体液、体毛、皮膚）	講義
8	生態防御学 第 2 次バリアー（免疫担当細胞、リンパ球、顆粒球系） 自然免疫と獲得免疫	講義
9	感染防御能 MHC class I MHC class II CD4T 細胞 CD8T 細胞 抗原提示機能	講義
10	ヘルプ機能（サイトカイン産生、情報伝達、自己増殖）・細胞障害機能） 抗体産制誘導 免疫記憶	講義
11	スタンダードプリコーション	講義
12	スタンダードプリコーションの実際	講義
13	消毒 滅菌法 無菌操作 手洗い	講義
14	環境清浄化	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学（医学書院）	
参考図書	授業中に指示	

分野	専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進
科目名	臨床治療論	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	田中正史（1～2） 廖 英和（3～5） 平林 弦大（6～11） 平野 雅弥（12～14）	
授業概要	疾病の回復を促進する治療法を知り、関連する専門職種とその役割を理解する。保健医療チームの中で多職種と連携・協働しながら、あらゆる人々へ質の高い看護を提供するために必要な基礎知識を学ぶ。	
到達目標	1. リハビリテーションの概要と治療、関連する専門職の役割を理解する。 2. 放射線医学の概要と治療、関連する専門職の役割を理解する。 3. 東洋医学の概要と治療、関連する専門職の役割を理解する。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 <u>看護を提供するための確実な知識・技術</u>	DP4 <u>看護実践能力</u> DP5 <u>地域で活躍できる能力</u> DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	麻酔概論 ペインクリニック	講義
2	局所麻酔 全身麻酔	演習
3	東洋医学概論	演習
4	鍼灸 漢方	講義
5	鍼灸 漢方	講義
6	リハビリテーション概論	講義
7	リハビリテーション医学の基礎知識 理学療法 関連する専門職	講義
8	リハビリテーションの実際 動作介助とボディメカニクス	演習
9	リハビリテーションの実際 動作介助とボディメカニクス	演習
10	作業療法 関連する専門職	講義
11	言語聴覚療法 関連する専門職	講義
12	放射線医学の成り立ちと意義 関連する専門職	講義
13	放射線診断	講義
14	放射線治療	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点 （麻酔・東洋医学 40 点 リハビリテーション 40 点 放射線医学 20 点）	
テキスト	別巻 臨床外科総論（医学書院） 別巻 リハビリテーション看護（医学書院） 別巻 臨床放射線医学（医学書院）	
参考図書		

分野	専門基礎分野	健康支援と社会保障制度
科目名	医療情報学	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	高山 善文	
授業概要	保健医療における ICT を活用した情報システムの実際を知り、患者の利益と人権を守るために、情報の活用と保護について学習する。保健医療の ICT 化に対応し、ICT を活用した看護実践を自ら創造するための基礎的能力を養う。	
到達目標	1. 保健医療に関わる ICT を活用した情報システムについて理解できる。 2. 情報システムにおける多職種の連携と医療安全について理解できる。 3. 情報の取り扱い、個人情報の保護と情報の利用の仕方を理解できる。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	保険医療と情報 医療における情報・ヘルスプロモーションと情報	講義
2	看護と情報 看護における情報・情報化社会と看護	講義
3	医療における情報システム 医療における情報の記録	講義
4	医療における情報システム 病院情報システムと記録の仕方・保健医療福祉のネットワークと情報システム	講義
5	情報倫理と医療倫理	講義
6	患者の権利と情報 患者の権利と自己決定の支援・診療情報の開示	講義
7	個人情報の保護 医療・看護における個人情報・情報の利用の仕方	講義
8	まとめ 筆記試験 (50 分)	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	別巻 看護情報学 (医学書院)	
参考図書		

分野	専門基礎分野	健康支援と社会保障制度
科目名	健康と生活を支えるシステム	
単位／時間数／授業回数	1 単位／20 時間／10 回	
開講時期	3 年後期	
担当教員名	前田 久恵	
授業概要	人々の健康と生活を支える法や施策、関わる専門職種について、発達段階や健康レベルに応じた仕組みを理解し、あらゆる場であらゆる人がその人らしく生活できるよう、看護実践するための基礎的能力を養う。実習での経験を活用し事例を検討することで、生活と医療の両方の視点を持ち、連携協働の役割を考える。	
到達目標	1. 発達段階、健康レベルに応じた健康と生活を支えるシステムがわかる。 2. かかわる専門職種と看護の連携・協働について考察できる。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	人々の健康と生活を支える法と施策、生活を支えるとは	講義
2	地域で生活する対象の事例を設定	講義
3	対象の生活を支える制度（保健・医療）	演習
4		
5	対象の生活を支える制度（介護・生活支援）	演習
6		
7	対象の生活を支える制度（社会的役割・労働・経済）	演習
8		
9	対象の生活を支える制度の共有	演習
10	ライフステージごとの諸制度	講義
成績評価の方法	可否	
テキスト	授業で配布する資料	
参考図書	公衆衛生が見える（メディックメディア） 国民衛生の動向 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉（医学書院） 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令（医学書院）	

分野	専門基礎分野	健康支援と社会保障制度
科目名	公衆衛生学	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	3 年後期	
担当教員名	吉原 素子	
授業概要	人々の健康を守るためには、生活の場での水・食・有害物質などの環境の安全と健康づくり、疾病予防や疾病の早期発見、早期治療を組織的に行う必要がある。予防医学としての公衆衛生の歴史と現在のありかたについて学び、各発達段階と、生活する場における健康問題について理解する。	
到達目標	1. 個人及び集団における健康の意義を理解する。 2. 健康の保持増進のための組織的な保健活動について理解する。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	世界の公衆衛生 日本における公衆衛生	講義
2	公衆衛生の活動対象 公衆衛生のしくみ	講義
3	公衆衛生と疫学 地球規模の環境と健康 身の回りの環境と健康	講義
4	感染症と予防対策 公衆衛生上重要な感染症	講義
5	地域における公衆衛生の実践	講義
6	学校と健康 学校における健康とは	講義
7	職場と健康	講義
8	まとめ 筆記試験 (50 分)	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生 (医学書院)	
参考図書		

分野	専門基礎分野	健康支援と社会保障制度
科目名	看護をとりまく法律	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	3 年後期	
担当教員名	中村 弘毅	
授業概要	法の基本的概念を知り、基本的人権と医療の結びつきを知る。医療・看護が法律の中で規定されている事柄と看護行為を関連させて学ぶ。また、医療事故、医療過誤に実際の事例を通し看護が直面している法的問題を理解する。	
到達目標	1. 法の知識と法令について理解する。 2. 法律で規定されている看護婦の業務や責任について理解する。 3. 看護者に必要な関連法規を理解する。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	法の概念	講義
2	看護のための法学の目的 看護師が直前にする 4 つの責任（刑事・民事・行政・労働の具体的内容）	講義
3	憲法の意義 看護記録の重要性 裁判員制度と刑事手続	講義
4	保健師助産師看護師法 看護師等人材確保の促進に関する法律	講義
5	医療法 医療に関する資格	講義
6	医療を支える法	講義
7	保健衛生法 精神保健 母子保健 母体の保護	講義
8	個別の疾病対策 感染症に関する法令	講義
9	薬務法	講義
10	社会保険法	講義
11	福祉の基盤、児童分野における福祉	講義
12	高齢分野、障害分野における福祉法	講義
13	労働法と社会基盤整備	講義
14	環境法	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令（医学書院）	
参考図書		

分野	専門基礎分野	健康支援と社会保障制度
科目名	社会福祉論	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	3 年後期	
担当教員名	杉山 明伸	
授業概要	社会福祉の発展の歴史と理念を学び、社会保障制度のなかの福祉政策を学ぶ。 基本的人権としての健康を守るために、様々な発達段階、健康レベル、機能障害を持つ人々へ生活の支援として、具体的な制度の利用の仕方を通して、理念の達成の方向性と現代の福祉の問題を学ぶ。	
到達目標	1. 社会福祉の概念を理解する。 2. 現在の社会福祉における生活問題について理解する。 3. 社会福祉の体系からみた社会福祉制度について理解する。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	社会福祉と福祉 福祉国家制度への経緯	講義
2	福祉の理念 戦後福祉国家を目指して歩み始めた日本	講義
3	日本における医療保険制度の成立と	講義
4	日本の生活問題への特徴 生活保護	講義
5	公費負担医療 児童福祉	講義
6	老人福祉 介護保険 介護保険	講義
7	障害福祉 社会福祉全般	講義
8	まとめ 筆記試験 (50 分)	
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉 (医学書院)	
参考図書		

分野	専門基礎分野	健康支援と社会保障制度
科目名	癒しの科学	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	3 年前後期	
担当教員名	川村 真理子（1～6） 安達 章子（7～10） 梅澤 洋子（11～15）	
授業概要	代替療法（ヨーガ、アロマテラピー、音楽療法）の実際を知り、生命エネルギーを活用した QOL を高めるための健康支援の方法を学ぶ。	
到達目標	1. ヨーガ、アロマテラピー、音楽療法の実際を体験し、それぞれの効果を実感することができる。 2. 体験したことを振り返り、心と体の関係について理解を深めることができる。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	音楽療法の効用とは？ ・動きのワークを通して音楽療法に出会う	演習
2	療法楽器の作用とは？ ・楽器に触れ奏で、各楽器の分類と作用を考える	演習
3	療法の中で音楽の要素は、どの様に生かされているか？ ・メロディー、ハーモニー、リズム、タクト、音程	演習
4	療法の実際 ・ドイツや日本における事例を元にグループ療法を体験	演習
5	予め決めたグループ毎に音楽ワーク(療法楽器を使用)を作る ・立案、楽器選択、練習	演習
6	グループ発表とフィードバック	演習
7	アロマテラピーの歴史とその背景	講義
8	アロマテラピーの基礎知識	講義
9	アロマテラピー実践法	講義 演習
10	アロマトリートメントの効果	演習
11	ヨーガについての説明（心と体を鍛えるのではなく調える） マインドフルネスヨーガの実践	演習
12	ヨーガの実践 アーサナ 浄化法 簡単な瞑想	演習
13	ヨーガの実践 アーサナ パワナムクタアーサナ 呼吸法 2 獣類 シャバーサナ	演習
14	ヨーガの実践 二人ヨーガ 健康法 ヨーガの心のあり方について シャバーサナ	演習
15	ヨーガの実践 アーサナ 呼吸法 シャバーサナ	演習
成績評価の方法	レポート 可否	
テキスト	授業で配布する資料	
参考図書		

Ⅲ 専門分野

1 . 基礎看護学

基礎看護学の考え方

少子高齢化に伴う社会構造の変化や医療制度の変遷、医療技術の発展によって医療・看護をとりまく社会状況は大きく変化し、複数の疾病を抱えながら暮らす人々が増え、それらの人々の療養の場が暮らしの場にシフトしている。その中で、地域医療構想の実現や地域包括ケアシステムの構築が進められている。今後もさらに保健医療サービスに対する量的・質的な需要は増大・多様化することが予想され、看護師の活動の場の多様化が推し進められている。

これらを踏まえ、看護職者は専門的知識・技能を自己研鑽し、幅広い知識に基づいた質の高い看護を提供していくことが期待されている。また、人々の健康と生活を支え、人間の生と死という生命の根元にかかわる問題に直面することが多く、その判断及び行動には高い倫理性が求められている。学生は、知識だけではなく感性豊かな人間性と人間への深い洞察力や思索などを持ち、専門職業人としての技術や態度の習得を目指し自ら学び続ける力を養っていくことが求められる。

基礎看護学では看護学の入り口として、基礎的な知識・技術・態度を修得することを目的とする。各看護学の基盤となる基礎的理論や基礎的技術を学ぶため、看護学概論、臨床看護総論を含む内容で構成している。多様な場で多様な対象者の生活を理解し、その人らしさを的確にとらえ、意思決定を尊重し尊厳を守るうえでの倫理観と、患者―看護師の援助的関係の形成に必要なコミュニケーション能力を養い、看護実践できるためのヘルスアセスメント能力の基盤としたい。

臨床場面に近い状況を設定しシミュレーションを活用した演習を取り入れフィジカルアセスメントを強化することで科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断「気づき」「解釈」「反応」「省察」を行うための基礎的能力の修得をめざす。

目的

生命の尊厳を基盤に、看護学全体の主要概念と保健・医療・福祉の場における看護の役割を理解し、看護の基礎となる知識・技術・態度と、看護の専門性を追求していくための基礎的能力を養う。

目標

1. 看護学を構成する人間、健康、環境、看護の概念を学び、看護の本質と保健・医療・福祉の場における看護の役割を理解する。
2. 看護を実践する上での基礎となる知識・技術・態度を習得する。
3. 科学的根拠に基づく看護実践のための思考過程を理解し、対象者に適した安全・安楽な援助方法を習得する。

科目の構成・計画

科目名	内容	単位・時間		第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年	
看護学概論		1	30	1	30				
看護に共通する技術Ⅰ	看護技術とは 感染防止の技術 環境調整技術	1	30	1	30				
看護に共通する技術Ⅱ	コミュニケーション 活動・休息援助技術	1	30	1	30				
日常生活援助技術Ⅰ	食事援助技術 排泄援助技術	1	30	1	30				
日常生活援助技術Ⅱ	清潔・衣生活 援助技術	1	30	1	30				
診療に伴う援助技術Ⅰ	臨床薬理 与薬の技術	1	30			1	30		
診療に伴う援助技術Ⅱ	生体機能管理技術	1	30			1	30		
フィジカルアセスメント		1	30	1	30				
看護過程展開の技術		1	30	1	30				
看護技術の統合演習		1	30	1	30				
臨床看護総論		1	30			1	30		
看護倫理		1	15					1	15
小 計		12	345	8	240	3	90	1	15

分野	専門分野	基礎看護学
科目名	看護学概論	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年前期	
担当教員名	前田 久恵	
授業概要	看護学を構成している人間、環境、健康、看護の基本的概念について学び、さらに看護が保健医療福祉活動の一翼を担う専門職として社会的責務をはたすための看護の本質を探究し、看護の目的や役割機能について学ぶ。これらの学習を通して、看護学の中心的概念を理解する。	
到達目標	1. 看護を構成する人間、健康、環境、看護の概念を学び、看護の本質を理解する。 2. 看護の役割と機能を学び、看護の方法及び看護活動の概要を理解する。 3. 保健・医療・福祉の場における連携、調整の必要性を理解する。 4. 看護の歴史を学び、現代の看護とのかかわり及び今後の看護のあり方を考察する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	看護の概念	講義
2	看護の起源	講義
3	看護の歴史 古代文明の発祥と看護 宗教と看護	講義
4	看護の歴史 ナイチンゲールによる近代看護の確立	講義
5	看護の歴史 日本における看護の歴史	講義
6	看護の定義 看護職能団体による定義 看護理論家による看護の定義	講義
7	看護の対象である人間の理解 生物の一種としての人間 統合体としての人間の理解	講義
8	看護の対象である人間の理解 生活者としての人間 看護の対象としての個人・家族・集団・地域	講義
9	看護の対象である人間の理解 看護に求められる役割	講義
10	人間と環境 環境の概念 ホメオスタシス	講義
11	健康と看護 健康の概念 健康と疾病との関係 疾病予防とヘルスプロモーション	講義
12	専門職としての看護師 看護専門職とは 看護基礎教育 継続教育 看護活動の場 多職種との連携協働	講義
13	看護と倫理 看護職者の倫理 患者の権利と意思決定 倫理原則	講義
14	看護の概念について考察	講義
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	基礎看護学 [1] 看護学概論 (医学書院) 看護の基本となるもの (日本看護協会) 看護覚え書—看護であること 看護でないこと (現代社) 看護職の基本的責務 定義・概念／基本法／倫理 (日本看護協会)	
参考図書		

分野	専門分野	基礎看護学
科目名	看護に共通する技術Ⅰ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年前期	
担当教員名	山 真紀（1～9） 小林 千恵子（10～14）	
授業概要	看護技術の特徴を理解し、看護基本技術を支える態度や行為の構成要素を学ぶ。感染予防の技術では、感染予防の意義を理解し、感染管理に必要な基礎知識を学ぶ。環境調整技術では、人間を取り巻く環境を理解し、生活環境を整えるための知識と援助方法を学ぶ。	
到達目標	1. 看護実践の構成要素には、知識・技術・態度があることを理解し、看護実践と看護技術のつながりについて考えることができる。 2. 感染予防の意義を理解し、原理・原則に沿った基本的な感染予防援助技術を習得する。 3. 人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	看護技術とは	講義
2	看護技術の特徴 看護技術の構成要素	講義
3	看護技術の基盤 科学的根拠と観察 安全・安楽・自立	講義・演習
4	感染予防の意義 感染症に関する法律	講義
5	標準予防策 感染経路別予防対策（接触感染 飛沫感染 空気感染）	講義
6	感染予防のための援助方法 手指衛生 個人防護具の着用	講義・演習
7	感染症予防のための組織と感染症発症時の対応 感染性廃棄物の取り扱い	演習
8	感染予防のための援助方法 無菌操作 滅菌物の取り扱い	演習
9	感染予防のための援助方法 滅菌と消毒	講義
10	人と環境 療養生活と環境 生活環境の調整	講義
11	療養環境のアセスメントと調整 ベッド周囲の環境整備 病床を整える	講義
12	環境調整技術① ベッドメイキング	演習
13	環境調整技術① ベッドメイキング	演習
14	環境調整技術② 環境整備	演習
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点 （看護技術とは 20 点 感染予防の技術 45 点 環境調整技術 35 点）	
テキスト	基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）	
参考図書	看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術（メヂカルフレンド）	

分野	専門分野	基礎看護学
科目名	看護に共通する技術Ⅱ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年前期	
担当教員名	佐藤 華子（1～7） 原 紀子（8～14）	
授業概要	コミュニケーションでは、看護専門職者として必要なコミュニケーション能力について理解し、人間関係構築のためのコミュニケーション技術を学ぶ。活動・休息援助技術では、人間にとっての活動・休息の意義を理解し、人間の身体構造や機能を力学的視点からとらえたボディメカニクスの原理を活用し、安全・安楽に移動する方法を学ぶ。	
到達目標	1. コミュニケーションの特徴、看護・医療におけるコミュニケーションの重要性を理解し、関係構築のためのコミュニケーションの基本技術を習得する。 2. 人間の活動・運動の意義を理解し、健康な生活を送るための援助の方法を習得する。 3. 睡眠・休息の意義とメカニズムを理解し、休息・睡眠を促す援助方法を理解する。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	コミュニケーションの意義と目的	講義
2	看護・医療におけるコミュニケーション 目的 特徴	講義
3	コミュニケーションの構成要素	講義
4	看護専門職者としてのコミュニケーション	演習
5	関係構築のためのコミュニケーションの基本 基本的な態度	講義
6	効果的なコミュニケーションの実際	講義
7	看護における関係構築のためのコミュニケーション	演習
8	基本的活動とは よい姿勢 ボディメカニクス	講義
9	基本的活動の援助 体位・歩行①	講義・演習
10	基本的活動の援助 体位・歩行② 体位変換	演習
11	基本的活動の援助 移乗・移送①	講義・演習
12	基本的活動の援助 移乗・移送② 車椅子移動	演習
13	長期臥床による影響 ①廃用症候群 ②褥瘡予防	講義・演習
14	睡眠・休息の意義 睡眠のメカニズム 睡眠を妨げる因子 休息活動の援助	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点 （コミュニケーション 50 点 活動・休息援助技術 50 点）	
テキスト	基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）	
参考図書	看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術（メヂカルフレンド）	

分野	専門分野	基礎看護学
科目名	日常生活援助技術Ⅰ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	井戸川 彩（1～7） 岩崎 満穂（8～14）	
授業概要	「食えること」「排泄すること」は、すべての人に欠かせない生活行動である。食事援助技術では、栄養状態や摂食能力などのアセスメントの方法について学び、食事介助の方法や非経口的栄養摂取の援助の方法を学ぶ。排泄援助技術では、排泄の意義と排尿・排便のメカニズムを理解し、対象者の状態に応じた排泄の援助方法を学ぶ。	
到達目標	1. 栄養と食事のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法を理解する。 2. 健康レベル・食事行動の自立度に応じた栄養と食事のニーズを充足する方法について、看護の視点から考え、効果的な援助の方法を習得する。 3. 人間の排尿・排便に関するメカニズム、意義を理解し、患者が健康的な生活を送るために必要な援助方法を習得する。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	食事・栄養の意義	講義
2	食事援助技術① 食事摂取の介助	演習
3	食事援助技術② 食事摂取の介助	演習
4	食事に関する生理学的メカニズム 食欲に影響を及ぼす因子	講義
5	栄養状態のアセスメント	講義
6	食事・栄養に関する援助の実際① 援助方法の選択 経口栄養の援助	講義
7	食事・栄養に関する援助の実際② 非経口的栄養摂取の援助	講義
8	排泄の意義 排尿・排便の生理学的メカニズムとアセスメント	講義
9	排尿・排便障害の種類 排尿・排便の援助①	講義
10	排尿・排便を促す援助②	講義
11	排尿・排便を促す援助③	講義
12	排泄援助技術① 床上排泄 尿器・便器を用いた援助	演習
13	排泄援助技術②一時的導尿	演習
14	排泄援助技術③一時的導尿	演習
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点 （食事 50 点、排泄 50 点）	
テキスト	基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）	
参考図書	看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術（メヂカルフレンド）	

分野	専門分野	基礎看護学
科目名	日常生活援助技術Ⅱ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	山 真紀	
授業概要	からだの清潔を保ち、身だしなみを整えることはあらゆる人間が持っている基本的ニーズである。皮膚・粘膜の構造と機能、清潔援助の効果と全身への影響を理解し、対象に合わせた清潔援助方法の選択や、具体的な援助の方法を学ぶ。衣生活の基礎知識を理解し、援助の実際と寝衣交換の方法を学ぶ。	
到達目標	1. 皮膚と粘膜の保護および清潔保持に関する生理学的メカニズムを理解し、清潔援助の効果と全身への影響を理解する。 2. 清潔のニーズをアセスメントし、援助方法の選択の視点、清潔援助方法の実際を学び清潔援助技術を習得する。 3. 人間の生活における衣服を用いることの意義を理解し、衣生活における援助方法を習得する。	
DP と の 関連	DP1 対象を理解する能力 <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	清潔の意義 皮膚・粘膜の構造と機能 清潔援助の効果	講義
2	清潔援助技術 基本技術演習	演習
3	清潔のニーズのアセスメント 援助方法の選択	講義
4	清潔の援助の実際① 入浴・シャワー浴 全身清拭 洗髪	講義
5	清潔援助技術① 全身清拭	演習
6	清潔援助技術① 全身清拭	演習
7	清潔援助技術① 洗髪	演習
8	清潔援助技術① 洗髪	演習
9	清潔の援助の実際② 整容 口腔ケア 手浴・足浴	講義
10	清潔援助技術② 整容 口腔ケア 手浴・足浴	演習
11	清潔の援助の実際③ 陰部洗浄	講義
12	清潔援助技術③ 陰部洗浄	演習
13	衣生活の援助 衣服を用いることの意義 衣生活のアセスメント	講義
14	衣生活の援助技術 病衣・寝衣の交換	演習
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）	
参考図書	看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術（メヂカルフレンド）	

分野	専門分野	基礎看護学
科目名	診療に伴う援助技術Ⅰ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	森田 徹（メビウス）（1～7） 廣瀬 朝江（8～14）	
授業概要	薬物療法における看護師の役割を学ぶ。患者が受ける薬物療法の目的、処方の意図、副作用とその徴候を理解し、アセスメントや効果の判定を正確に行うための知識を習得する。さらに、正しい与薬方法・薬剤の管理方法、各種与薬方法の特徴と援助の実際を学ぶ。	
到達目標	1. 薬物療法の基本と看護師の役割を理解する。 2. 主な症状・疾患に使用する薬剤の機序・効果・有害作用とアセスメントや効果の判定の視点を理解する。 3. 各種与薬の適用・留意点・安全安楽かつ確実な与薬援助技術を習得する。	
DP と の 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	薬物療法における看護師の役割	講義
2	薬物治療の基礎	講義
3	対症療法薬の臨床薬理学①	講義
4	対症療法薬の臨床薬理学②	講義
5	主要疾患の臨床薬理学①	講義
6	主要疾患の臨床薬理学②	講義
7	主要疾患の臨床薬理学③	講義
8	与薬の技術 与薬の基礎知識	講義
9	与薬の技術 援助の基礎知識	講義
10	与薬の技術 注射の実施法	演習
11	与薬の技術 注射の実施法	演習
12	与薬の技術 注射の実施法	演習
13	与薬の技術 注射の実施法	演習
14	与薬の技術 注射の実施法	演習
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点 （臨床薬理 50 点 与薬の技術 50 点）	
テキスト	疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学（医学書院） 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）	
参考図書	看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術（メヂカルフレンド）	

分野	専門分野	基礎看護学
科目名	診療に伴う援助技術Ⅱ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	山 真紀（1～6）土岐 幸子（7～11）木村京子（12～14）	
授業概要	検査・治療の意義および検査・治療・処置における看護師の役割を学ぶ。検査・治療・処置に伴う技術として、検体検査・創傷管理・呼吸・循環を整える技術・輸血管理について学ぶ。	
到達目標	1. 検査における看護師の役割を理解し、正確な検体の採取と援助方法を習得する。 2. 創傷管理の基礎知識と創保護・包帯法を習得する。 3. 呼吸・循環管理に必要な酸素吸入療法・一時的吸引・吸入・体温調整のための基礎的知識・技術を習得する。 4. 輸血を安全に行うための基礎的知識・援助方法を理解する。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	診察・検査・処置の介助技術①	講義
2	診察・検査・処置の介助技術②	講義
3	検体検査 援助の基礎知識	講義
4	検体検査 血液検査①	演習
5	検体検査 血液検査②	演習
6	輸血管理 援助の基礎知識	講義・演習
7	呼吸・循環を整える技術 援助の基礎知識	講義
8	呼吸・循環を整える技術 酸素吸入療法	講義・演習
9	呼吸・循環を整える技術 排痰ケア（一時的吸引、吸入）	講義・演習
10		
11	呼吸・循環を整える技術 発熱時・低体温時の援助	講義
12	創傷管理技術 創傷管理の基礎知識	講義
13	創傷管理技術 創傷処置 創保護	講義・演習
14	創傷管理技術 創傷処置 包帯法	講義・演習
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点（山 45 点・土岐 35 点・木村 20 点）	
テキスト	基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）	
参考図書	看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術（メヂカルフレンド）	

分野	専門分野	基礎看護学
科目名	フィジカルアセスメント	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	土岐 幸子	
授業概要	看護におけるフィジカルアセスメントの概念と目的を理解し、形態機能学・人間の身体面に焦点をあて、看護の対象の健康状態を把握するための基本技術を学ぶ。生命を維持するうえで必要なバイタルサイン測定の技術や健康状態の評価に必要なフィジカルアセスメントの理論と方法を学ぶ。	
到達目標	1. 看護におけるヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントの意義と目的を理解する。 2. フィジカルアセスメントに必要な基本技術を習得する。 3. フィジカルイグザミネーションで得られた情報に基づいて、対象者に起こっていること・起こりうることをアセスメントし、必要な援助を考えることができる。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	ヘルスアセスメントとは フィジカルアセスメントとは	講義
2	フィジカルアセスメントに必要な基本技術 ①	講義
3	フィジカルアセスメントに必要な基本技術 ②	講義・演習
4	フィジカルアセスメントに必要な基本技術 ③ 血圧測定	演習
5	バイタルサインの観察とアセスメント ①	講義
6	バイタルサインの観察とアセスメント ②	講義
7	バイタルサインの観察とアセスメント ③ バイタルサイン測定	演習
8	系統別フィジカルアセスメント ① 循環器系	講義
9	系統別フィジカルアセスメント ② 呼吸器系	講義
10	系統別フィジカルアセスメント ③ 消化器系	講義
11	系統別フィジカルアセスメント ④ その他	講義
12	循環器系アセスメントの実際 心音の聴診	講義・演習
13	呼吸器系アセスメントの実際 呼吸音の聴診	演習
14	消化器系アセスメントの実際 腹部の聴診・触診	演習
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）	
参考図書	看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術（メヂカルフレンド）	

分野	専門分野	基礎看護学
科目名	看護過程展開の技術	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	尾形 洋子	
授業概要	看護過程は看護の目的や機能を具体的に実践するための方法論の 1 つであり、看護理論と実践をつなげるものである。看護過程の構成要素であるアセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価を理解し、演習として紙上事例を用いて一連の看護過程を展開する。演習を通して、対象の個別性に応じた看護を、根拠をもって具体化できることを学ぶ。	
到達目標	1. 看護過程の構成要素、基盤となる考え方を理解する。 2. 看護過程の構成要素であるアセスメント、看護診断、計画立案、実施、評価を理解する。 3. グループで紙上事例を用いて看護過程の展開をおこない、リフレクションができる。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	看護過程とは 基盤となる考え方 問題解決課程 クリティカルシンキング 倫理的配慮 リフレクション 看護診断とは NANDA-I 分類と定義	講義
2	看護過程の構成要素 アセスメント 看護診断 計画立案 実施 評価	講義
3	看護過程の各段階：アセスメント	講義
4	看護過程演習：紙上事例のアセスメント① 情報収集 データベース	演習
5	看護過程演習：紙上事例のアセスメント② 分析 関連図	演習
6	看護過程の各段階：看護問題の明確化 看護診断	講義
7	看護過程演習：看護診断 問題リスト	演習
8	看護過程の各段階：看護計画	講義
9	看護過程演習：看護計画	演習
10	看護過程の各段階：実施 評価	講義
11	看護記録とは 記載・管理における留意点 看護記録の構成	講義
12	看護過程演習 紙上事例の看護計画の実施、記録①	演習
13	看護過程演習 紙上事例の看護計画の実施、記録②	演習
14	リフレクション	演習
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I (医学書院) NEW 実践！看護診断を導く 情報収集・アセスメント (学研) NANDA-I 看護診断 2024-2026 定義と分類 (医学書院) 看護がみえる看護過程の展開 (メディックメディア)	
参考図書	別巻 臨床検査 (医学書院)	

分野	専門分野	基礎看護学
科目名	看護技術の統合演習	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	畑崎 紀子	
授業概要	看護過程の展開事例を用い、既習の知識・技術を統合し、対象者の個別性に合わせた看護援助計画を立案し実施、対象者の反応を捉え評価・修正する過程を習得する。	
到達目標	1. 事例の個別性に合わせた看護援助計画を立案し、安全・安楽に実践できる。 2. 実践中・実践後の対象の反応を捉え、看護師役の行った看護実践を評価・修正できる。	
DP と の 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	事例に関する学習課題	演習
2	事例の個別性に合わせた看護援助計画立案①	演習
3	事例の個別性に合わせた看護援助計画立案②	演習
4	看護援助計画に基づく技術練習①	演習
5	看護援助計画に基づく技術練習②	演習
6	看護援助計画に基づく技術練習③	演習
7	看護援助計画に基づく技術練習④	演習
8	事例の個別性に合わせた実践①リフレクション	演習
9	事例の個別性に合わせた実践②リフレクション	演習
10	事例の個別性に合わせた実践③リフレクション	演習
11	事例の個別性に合わせた実践④リフレクション	演習
12	事例の個別性に合わせた実践⑤リフレクション	演習
13	事例の個別性に合わせた実践⑥リフレクション	演習
14	実践を踏まえ看護援助計画の評価・修正①	演習
15	実践を踏まえ看護援助計画の評価・修正②	演習
成績評価の方法	技術実践、記録物 可否	
テキスト	基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）	
参考図書	看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術（メヂカルフレンド）	

分野	専門分野 基礎看護学	
科目名	臨床看護総論	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	2 年後期	
担当教員名	廣瀬 朝江	
授業概要	臨床判断能力を養うことを目的として、急性期看護のシミュレーション演習を通して、既習科目の基礎的な知識・技術を統合し、対象者の変化するライフサイクル、場、健康状態に適した、科学的根拠に基づく看護実践のための思考過程を学ぶ。	
到達目標	1. 事例患者の情報から、ライフサイクル、場、変化する健康状態（機能障害、症状、徴候、検査、治療）から生じるニーズを理解できる。 2. 事例患者の情報からその後の健康状態の変化を予測した上で、その状況からどのような看護が求められているのか科学的根拠に基づき思考し、看護計画を立案、実践し振り返ることができる。	
DP との関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	臨床判断とは	講義
2	演習オリエンテーション 学習課題・事例提示	講義
3	事例の情報から現在の状態を分析・解釈①	講義
4	事例の情報から現在の状態を分析・解釈②	GW
5	事例の情報から現在の状態を分析・解釈③	GW
6	事例の情報から現在の状態を分析・解釈④	GW
7	予測に基づき看護援助計画を立案①	GW
8	予測に基づき看護援助計画を立案②	GW
9	看護援助計画に基づき実践①	演習
10	看護援助計画に基づき実践②	演習
11	看護援助計画に基づき実践③	演習
12	看護援助計画に基づき実践④	演習
13	看護援助計画に基づき実践⑤	演習
14	臨床判断トレーニング①	講義
15	臨床判断トレーニング②	演習
成績評価の方法	課題レポート 可否	
テキスト	基礎看護学 [4] 臨床看護総論（医学書院）	
参考図書		

分野	専門分野	基礎看護学
科目名	看護倫理	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	3 年後期	
担当教員名	須田 里佳子	
授業概要	倫理学・生命倫理学を基盤に看護倫理における重要な概念（看護倫理の定義や歴史、看護倫理の原則、アドボカシー、ケアリングなど）を理解する。具体的な看護実践の事例を通して、看護専門職としての倫理的問題へのアプローチ方法の基本と、倫理的な意思決定のための方法について理解する。	
到達目標	1. 生命の価値や生きることの意義、質について理解する。 2. 臨床看護場面における倫理について考えることができ、倫理に基づいた実践を行う基礎的な考え方を習得する。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	医療・看護における倫理原則	講義
2	患者の権利と自己決定 患者の自己決定を支える看護	講義
3	看護の場における倫理的問題	講義
4	倫理的問題へのアプローチ①	講義
5	倫理的問題へのアプローチ②	講義
6	看護研究の倫理	講義
7	事例検討：倫理的課題と看護	講義
8	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	看護倫理（医学書院）	
参考図書		

2. 地域・在宅看護論

地域・在宅看護論の考え方

わが国は、急速な少子高齢化が進展しており、多死社会を迎えることに加えて、医療の発展や地域完結型体制への転換が図られ、看護活動の場が地域に移行してきている。看護の対象は、全てのライフサイクルおよび健康段階の人々であり、健康の維持・増進・疾病の予防から始まり、疾病や障がいがあっても住み慣れた地域でその人らしい生活を送るための地域包括ケアシステムの構築が推進されている。そのために看護職は、地域で生活する人とその家族の暮らしを理解し支えるために、生活と医療の両方の視点を持ち多職種と連携、協働しコーディネーター的役割を担う必要がある。

また、地域においては生活の一部として療養や介護が行われることから、家族の健康課題が家族の生活にも影響を及ぼす可能性がある。そのため、家族のおかれている状況やその家族の機能をアセスメントし、家族の持つ力を引き出し、家族全体の健康を支援する能力を養う必要がある。

さらに、生活の基盤である地域を理解し、多様な価値観を尊重し、自己決定を支え、看護を切れ目なく提供し、病院から在宅へ移行支援、生活の再構築、エンドオブライフケアについて学び多様な場で生活する人々への看護を提供するための基礎的能力を養う。

目的

地域で生活する人と家族の健康と暮らしを理解し、健康状態を適切にアセスメントし、家族全体の健康を支援するための知識・技術・態度を修得する。

目標

1. 生活の基盤である地域と在宅看護の対象を理解することができる。
2. 在宅看護が推進される社会背景を踏まえ、在宅看護の特徴、役割や機能を理解することができる。
3. 在宅療養者と家族のセルフケア能力を高めるための支援方法を理解することができる。
4. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を理解することができる。
5. 在宅における援助の必要性を理解することができる。
6. 保健・医療・福祉の連携において社会資源の活用について理解することができる。
7. 在宅で療養している人々とその家族の生命と生活を尊重する態度を養い、看護の責任について考えることができる。

科目の構成・計画

科目名	内容	単位(時間)		第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年	
地域と暮らしの理解	地域特性の理解	1	15	1	15				
地域・在宅看護概論	在宅看護とは	1	30	1	30				
地域・在宅看護援助論Ⅰ	日常生活援助	1	15	1	15				
地域・在宅看護援助論Ⅱ	医療的ケアを伴う支援	1	30			1	30		
地域・在宅看護演習	高齢者見守り訪問	1	15			1	15		
家族看護	家族支援	1	15	1	15				
小 計		6	120	4	75	2	45		

分野	専門分野	地域・在宅看護論
科目名	地域と暮らしの理解	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	1 年前期	
担当教員名	井戸川 彩	
授業概要	生活している人の暮らしを整えることや、ケアマネジメントするうえでの基盤となる地域の特徴を理解するために、統計学的側面から上尾市の動向を調査したうえで、人々が生活している住居や街並み、暮らしぶりについて観察する。	
到達目標	1. 地域に暮らす人々と地域を構成する要素について理解することができる。 2. フィールドワークを行い、生活者の点で地域の特徴を把握することができる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	地域に暮らす人々と地域を構成する要素 地域を知ることの意義（これからの暮らしという視点から）	講義
2	地区概要調査（地区の情報収集）	演習
3	地区概要調査・地域把握（フィールドワーク）もしくはインタビュー	演習
4	地域把握（まとめ）	演習
5	地区概要調査・地域把握（フィールドワーク）もしくはインタビュー	演習
6	母子・成人・高齢者・障害者の視点で見た地域特性についてのまとめ	演習
7	地域の特性の共有・発表	演習
8	発表・まとめ レポート作成	演習
成績評価の方法	レポート合否	
テキスト	地域・在宅看護の基盤（医学書院）	
参考図書	統計あげお 上尾市高齢者福祉計画・介護保険事業計画	

分野	専門分野	地域・在宅看護論
科目名	地域・在宅看護概論	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	原 紀子	
授業概要	地域・在宅看護が必要とされる社会情勢の変化を踏まえ、地域で生活する看護の対象と多様な看護活動の場と機能について理解する。さらに、地域包括ケアシステムの中での看護師の役割を見出し、多職種の連携・協働の意義と方法を学ぶ。	
到達目標	1. 在宅看護の目的と特徴を理解することができる。 2. 在宅看護の対象を理解することができる。 3. 療養者と支える制度と社会資源の活用について理解することができる。 4. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を理解することができる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	地域・在宅看護の変遷と、地域・在宅看護が求められる社会的背景	講義
2	地域・在宅看護の基盤と基本理念	講義
3	地域・在宅看護における倫理	講義
4	地域・在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件	講義
5	在宅・療養の場における家族の捉え方と家族への看護	講義
6	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携	講義
7	療養の場の移行に伴う支援	講義
8	在宅看護におけるケアマネジメント	演習
9	在宅療養を支える制度	講義
10	地域で療養生活を送る人の理解	講義
11	障がい者の在宅療養を支える社会資源	演習
12	在宅療養を支える訪問看護の特徴	講義
13	訪問看護制度	講義
14	在宅看護における危機管理	講義
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	地域・在宅看護の基盤 (医学書院) 地域・在宅看護の実践 (医学書院)	
参考図書	国民衛生の動向	

分野	専門分野	地域・在宅看護論
科目名	地域・在宅看護援助論Ⅰ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	井戸川 彩	
授業概要	地域で療養生活を送る本人と家族の思いに沿って「その人らしい」暮らしを営むために、セルフマネジメント機能の向上と悪化予防の観点で、必要な日常生活援助技術を生活の場で実践するための方法や工夫について学ぶ。	
到達目標	1. 在宅療養における生活ケア（ヘルスアセスメント）の必要性を理解することができる。 2. 在宅における日常生活援助の特徴を理解することができる。 3. 在宅における日常生活援助の必要性をアセスメントし、生活の場に合わせた援助技術を実践することができる。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	<u>DP4 看護実践能力</u> <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	初回訪問の目的と心構え・在宅におけるヘルスアセスメント	講義
2	在宅における日常生活を支える技術（食）	演習
3	在宅における日常生活を支える技術（排泄）	演習
4	在宅における日常生活を支える技術（移動・清潔）	演習
5	在宅における排泄の援助	演習
6	在宅における清潔援助技術の実践	演習
7	在宅における清潔援助技術の実践	演習
8	まとめ 筆記試験（50 分）	
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	地域・在宅看護の基盤（医学書院） 地域・在宅看護の実践（医学書院）	
参考図書		

分野	専門分野	地域・在宅看護論
科目名	地域・在宅看護援助論Ⅱ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	原 紀子（1～9）井戸川 彩（10～14）	
授業概要	在宅で医療的管理が必要な状況及び医療依存度の高い療養者と家族は複雑な課題を抱えているため、訪問看護師には状況判断能力が求められる。訪問看護でよく遭遇するシミュレーション場面を設定し、臨床判断の思考のプロセスを踏まえ、療養者と家族に対する援助方法を考える。	
到達目標	1. 在宅療養者の個別性に応じた医療的ケアの必要性を理解することができる。 2. 在宅療養者と家族のセルフケアの能力を高めるための支援方法を理解することができる。 3. 在宅で療養している人々とその家族の生命と生活を尊重するための、知識・技術・態度を習得することができる。	
DP と の 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	医療ケアの原理原則・在宅における胃瘻栄養法の管理と支援 在宅における中心静脈栄養法の管理と支援	講義
2	在宅における膀胱留置カテーテル管理と支援 在宅におけるストーマの管理と支援	講義 演習
3	在宅における褥瘡予防と管理・褥瘡処置と多職種連携	講義
4	在宅酸素療法を受ける療養者と家族への管理と支援	演習
5	在宅で療養する難病の方の生活の理解（当事者）	演習
6	在宅で療養する難病の方と家族への支援 在宅人工呼吸器療法の管理と支援	講義
7	在宅療養におけるポリファーマシー支援 在宅療養における服薬アドヒアランスの支援	講義
8	在宅で療養するこどもと家族の支援	講義
9	在宅で看取りを迎える療養者への援助	講義
10	在宅で看取りを迎える家族への支援	講義
11	在宅で療養する方と家族への援助 （実習の記録用紙を使用し、事例を基に援助を考えていく）	演習
12		
13		
14		
15	まとめ 筆記試験（50 分）	
成績評価の方法	筆記試験・成果物 100 点（原 65 点 井戸川 35 点）	
テキスト	地域・在宅看護の基盤（医学書院） 地域・在宅看護の実践（医学書院）	
参考図書		

分野	専門分野	地域・在宅看護論
科目名	地域・在宅看護演習	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	井戸川 彩	
授業概要	隣接する団地で生活する高齢者との関わりを通して、生活の視点を養い理解を深める。また、対象者がもつ地域でのネットワークや資源を知り、住み慣れた地域でその人らしく生活を営むための（ビジョンとゴールを設定し）提案を通して、考察する。	
到達目標	1. 対象者の生活状況を理解し、強みと課題について理解できる。 2. 対象のよりよい生活のための提案を考えることができる。 3. 対象者を支える地域包括ケアシステムについて考察することができる。	
DP と の 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	見守り訪問対象者の強みと課題の抽出	講義
2	住み慣れた地域でその人らしい生活をイメージする	演習
3	テーマに合わせた情報収集	演習
4	情報収集した内容の検証	演習
5	強みを生かし課題解決するための提案の検討	演習
6	具体的な提案書の作成	演習
7	地域住民に向けての提案	演習
8	リフレクション	演習
成績評価の方法	合否	
テキスト	地域・在宅看護の基盤（医学書院） 地域・在宅看護の実践（医学書院）	
参考図書	統計あげお 上尾市高齢者福祉計画・介護保険事業計画	

分野	専門分野	地域・在宅看護論
科目名	家族看護	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	野村 政子	
授業概要	家族看護では、家族全体を看護の対象と考える。家族は家族成員の構造の変化や健康問題に直面すると家族全体が影響を受けるため、健康問題に対応するために家族が持っている機能を最大限に発揮できるよう家族に働きかける看護について学ぶ。	
到達目標	1. 様々な健康レベルの健康課題と家族への支援の必要性を理解することができる。 2. 家族を単位としたアセスメントの視点を理解することができる。 3. 家族看護における看護師の役割を理解することができる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	家族看護の特徴と理念	講義
2	家族構造とは（ジェノグラム・エコマップ）	講義
3	現代の家族と課題	講義
4	家族の情報収集とアセスメント	講義
5	家族の看護問題の明確化	講義
6	家族支援と家族介入	講義
7	家族看護における看護師の役割	講義
8	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	別巻 家族看護学（医学書院）	
参考図書	家族看護学：家族のエンパワーメントを支えるケア（メディカ出版）	

3. 成人看護学

成人看護学の考え方

成人期は身体機能が成熟し、安定している時期である。成人期の健康管理がその後の老年期へ移行するにあたり、大きな影響がある時期である。超高齢化社会といわれる現代においては、健康的な老年期へ導く時期といえる。また、成人期は生産年齢に相当し、社会的な責任を担っており、疾病に罹患することはその役割の遂行に大きな影響を及ぼすことになる。したがって、疾病にかからないように自身の健康問題に向き合い、健康の維持に努めなければならない。そのため、セルフマネジメントを行いながら、セルフケアの活動を強化する必要がある。しかし、現在の社会構造は環境的变化、家族構造の変化、経済的变化など、多様な変化を遂げ、社会生活においては人間関係の変化も複雑と化している。社会構造の変化は、成人期の健康問題にも影響を与え、生活への影響も大きなものとなっている。成人期においては、健康を維持しながら、社会生活を営む使命が存在する。疾病が回復し、治癒へ向かうことを基本としながらも、現在は、疾病と共存しながら社会生活を営む生活へと変化をしている。特に、がん治療においては発展がめざましい。医学の進歩、変化に適応しながらも社会生活を維持することが必要であるといえる。

そこで、成人看護学では社会環境の影響と健康問題を考え、さらに個人の健康的な生活習慣獲得への取り組みをサポートし、セルフケアの確立をめざすための支援を考える。さらに、機能障害に対しその発生の原因と回復の過程を理解し、日常生活への適応に向けた支援の在り方を学ぶ。

目的

成人の健康の保持増進及び疾病予防の重要性を理解し、成人期にある対象と共に、健康上の諸問題を判断し、自立に向けて看護を実践できる能力を養う。

目標

1. 成人期にある対象の身体的・精神的・社会的側面を把握し、対象の特徴を総合的に理解する。
2. 成人の健康の現状と動向を理解するとともに、健康な生活を維持・増進する為に必要な看護の役割を理解する。
3. 成人期にある人々の様々な価値観、個別性及び社会的存在に関心を深めることができる。
4. 機能障害のある成人の特徴をアセスメントし診療に伴う援助及び、それに応じた日常生活の援助が実践できる。
5. 健康障害の発症予防から急性期・回復期・慢性期・安らかな死を迎えるまで、各健康レベルに応じた看護が実践できる。
6. 成人各自の自立性を生かし、セルフマネジメント能力を高めるためのアプローチができる。
7. 成人期にある対象の健康上の問題を捉え、セルフケア再構築のための方法を考えることができる。

科目の構成・計画

科目名	内容	単位(時間)		第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年	
成人看護学概論	成人看護の目的 成人期の健康問題	1	30	1	30				
成人看護援助論Ⅰ	循環器の看護 呼吸器の看護 救急蘇生法 BLS	1	30	1	30				
成人看護援助論Ⅱ	消化器の看護 内分泌・代謝の看護 慢性期の看護	1	30			1	30		
成人看護援助論Ⅲ	運動器の看護 脳・神経の看護 感覚機能障害と看護 回復期の看護	1	30			1	30		
成人看護援助論Ⅳ	血液・造血器の看護 腎・泌尿器の看護 がん看護	1	30			1	30		
成人看護援助論Ⅴ	クリティカルケア看護 終末期看護	1	30			1	30		
小 計		6	180	2	60	4	120		

分野	専門分野	成人看護学
科目名	成人看護学概論	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年前期	
担当教員名	長谷川 真美	
授業概要	成人期の健康生活を多角的に捉える視点を学び、成人の生活や生き方、健康問題について理解する。健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的な考え方と方法を学ぶ。	
到達目標	1. 成人期にある対象の身体的・精神的・社会的側面を把握し対象の特徴を総合的に理解する。 2. 成人の健康の現状と動向を理解するとともに、健康な生活を維持・増進する為に必要な看護の役割を理解する。 3. 成人期にある人々の様々な価値観、個別性及び社会的存在に関心を深め、成人期における看護を理解する。	
DP と の 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	成人の特徴 生活・発達課題	講義
2	生活と健康 行動変容・やる気を引き出すアプローチ	講義
3	成人の生活習慣と健康問題 職業と健康問題	講義
4	生活習慣とQOL	講義
5	生活と健康を守る保健・医療・福祉システム	講義
6	成人への看護アプローチ 健康生活を育む看護	講義
7	生活ストレスと看護 情緒的支援の看護	講義
8	急激な健康破綻から回復を促す看護	講義
9	新たな治療法・先端医療と看護	講義
10	侵襲的治療を受ける患者の看護	講義
11	健康生活の再調整を促す看護 慢性病患者への看護 特定疾患	講義
12	障害の受容とリハビリテーション 家族・患者会への支援	講義
13	退院調整の看護 成人教育の原理	講義
14	健康レベル・経過に応じた看護	演習
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	成人看護学 [1] 成人看護学総論 (医学書院)	
参考図書		

分野	専門分野	成人看護学
科目名	成人看護援助論 I	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	土岐 幸子（1～6） 上尾市消防本部（7～8） 宮尾 真奈美・笠井美穂（埼玉県立循環器・呼吸器病センター）（9～14）	
授業概要	対象の身体的・精神的・社会的特徴を明確にし、成人の健康問題を多角的な視点から捉え、明らかにできるよう看護の実践方法を学ぶ。この科目では、循環機能障害・呼吸機能障害に伴う検査・治療・処置に対する援助方法を学ぶ。また、救急看護の理解と一次救命処置の技法を学ぶ。	
到達目標	1. 循環機能障害の身体的・精神的・社会的特徴を理解し看護問題を科学的・論理的に理解する。 2. 呼吸機能障害の身体的・精神的・社会的特徴を理解し看護問題を科学的・論理的に理解する。 3. 救急看護の場、対象、救急蘇生法の理解とその技術を理解する。	
DP との関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	呼吸機能障害の特徴と看護の役割	講義
2	呼吸器のフィジカルアセスメント	演習
3	呼吸機能障害をもつ患者の看護 ①	講義
4	呼吸機能障害をもつ患者の看護 ②	講義
5	人工呼吸器を装着する患者の看護	講義
6	呼吸機能障害と日常生活援助	演習
7	救急蘇生法 講義 60 分・実技演習 120 分（2 グループに分かれて受講）	講義
8	事前学習として実技演習前に「応急手当 Web 講習（e-ラーニング）」を受講する	演習
9	循環機能障害の主な症状の看護	講義
10	検査に伴う看護（心電図・負荷心電図・血行動態モニタリング）	講義
11	検査に伴う看護（心電図・十二誘導）	演習
12	治療・処置を受ける患者の看護 薬物療法 心臓カテーテル治療 開心術	講義
13	循環機能障害をもつ患者の看護①	講義
14	循環機能障害をもつ患者の看護②	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点 （呼吸器 50 点 循環器 50 点）	
テキスト	成人看護学 [2] 呼吸器（医学書院） 成人看護学 [3] 循環器（医学書院）	
参考図書	人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）	

分野	専門分野	成人看護学
科目名	成人看護援助論Ⅱ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	廣瀬 朝江（1～5） 尾形 洋子（6～14）	
授業概要	対象の身体的・精神的・社会的特徴を明確にし、成人の健康問題を多角的な視点から捉え、明らかにできるよう看護の実践方法を学ぶ。この科目では、消化吸收機能障害、内分泌・代謝障害に伴う検査・治療・処置に対する援助方法を学ぶ。慢性的な経過を辿る疾患においてはヘルスプロモーション活動の推進が求められている。主体的な健康づくりのための支援としての指導技術を学ぶ。	
到達目標	1. 消化吸收機能障害の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、看護問題を科学的・論理的に理解する。 2. 内分泌・代謝機能障害の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、看護問題を科学的・論理的に理解する。 3. ヘルスプロモーションの促進に向けた看護の役割と、患者指導技術を理解する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	消化器疾患を持つ患者の特徴	講義
2	治療・処置・検査を受ける患者の看護	講義
3	消化吸收機能障害を持つ患者の看護①	講義
4	消化吸收機能障害を持つ患者の看護②	講義
5	消化吸收機能障害を持つ患者の看護③	講義
6	内分泌・代謝障害をもつ患者の理解	講義
7	処置・検査を受ける患者の看護	講義
8	薬物療法を受ける患者の看護 血糖の自己測定 演習	演習
9	内分泌・代謝障害を持つ患者の看護①	講義
10	内分泌・代謝障害を持つ患者の看護②	講義
11	セルフマネジメント・自己効力とは	講義
12	ヘルスプロモーションのアセスメント 事例紹介 情報収集	演習
13	患者指導案作成	演習
14	患者指導のロールプレイ リフレクション	演習
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点 （消化器 35 点 内分泌・代謝 35 点 慢性期の看護 30 点）	
テキスト	成人看護学 [5] 消化器（医学書院）・配布資料 成人看護学 [6] 内分泌・代謝（医学書院） 成人看護学 [1] 成人看護学総論（医学書院）	

分野	専門分野	成人看護学
科目名	成人看護援助論Ⅲ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	土岐 幸子（1～6） 渡部真由美（新久喜総合病院）（7～10） 高橋 美沙恵（新久喜総合病院）（11～14）	
授業概要	対象の身体的・精神的・社会的特徴を明確にし、成人の健康問題を多角的な視点から捉え、明らかにできるよう看護の実践方法を学ぶ。この科目では、運動機能障害、脳神経障害に伴う検査・治療・処置に対する援助方法を学ぶ。また、回復期における回復過程、セルフケアの再構築過程における看護の役割を学ぶ。	
到達目標	1. 運動機能障害の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、看護問題を科学的・論理的に理解する。 2. 脳・神経機能障害の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、看護問題を科学的・論理的に理解する。 3. 回復期の特徴を理解し、危機管理に留意しながら回復期における日常生活活動拡大のための援助方法が理解できる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	感覚機能障害をもつ人の看護 ①	講義
2	感覚機能障害をもつ人の看護 ②	講義
3	運動機能障害をもつ患者の特徴と看護	講義
4	筋・骨格系のフィジカルアセスメント	講義
5	運動機能障害をもつ患者の看護	講義
6	運動機能障害と日常生活援助	演習
7	脳神経障害をもつ患者の理解	講義
8	処置・検査を受ける患者の看護	講義
9	脳神経機能障害の症状に伴う看護	演習
10	脳神経機能障害をもつ患者の日常生活と看護	講義
11	回復期における特徴 健康管理と危機管理	講義
12	障害受容と新たな生活の獲得	講義
13	回復期における看護介入の必要性和その役割	講義
14	回復期における連携職種とチームアプローチ	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点 （感覚機能障害 15 点 運動器 30 点 脳・神経 30 点 回復期の看護 25 点）	
テキスト	成人看護学 [12] 皮膚（医学書院） 成人看護学 [13] 眼（医学書院） 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉（医学書院） 成人看護学 [10] 運動器（医学書院） 成人看護学 [7] 脳・神経（医学書院）	

分野	専門分野	成人看護学
科目名	成人看護援助論Ⅳ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	根布谷（さいたま赤十字病院）（1～2） 國井 哲子（3～4） 尾形 洋子（5～8） 須田 里佳子（9～14）	
授業概要	対象の身体的・精神的・社会的特徴を明確にし、成人の健康問題を他覚的な視点から捉え、明らかにできるよう看護の実践方法を学ぶ。この科目では、造血・免疫機能障害、排泄機能障害に伴う検査・治療・処置に対する援助方法を学ぶ。また、がんの診断から治療の過程を学び、長期の治療が生活に及ぼす影響を踏まえ、QOL の維持、向上、身体的・精神的アプローチ、患者や家族が取り組む課題を学ぶ。	
到達目標	1. 造血・免疫機能障害の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、看護問題を科学的・論理的に理解する。 2. 排泄機能障害の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、看護問題を科学的・論理的に理解する。 3. がん医療の現状と課題を理解し、がん看護の役割を理解する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	造血・免疫機能障害をもつ患者の特徴と看護 疾患の経過と看護の役割	講義
2	治療・処置・検査を受ける患者の看護	講義
3	性感染症の予防と看護の役割	講義
4		
5	排泄機能障害をもつ患者の特徴と看護	講義
6	検査・処置を受ける患者の看護	講義
7	人工透析を受ける患者の看護	講義
8	手術を受ける患者の看護 性・生殖機能障害のある患者の看護	講義
9	がん医療の現在	講義
10	がんの病態と臨床経過	講義
11	がんの治療（手術療法・薬物療法・放射線療法）	講義
12	がん治療における看護の役割 苦痛に対するマネジメント	講義
13	がん治療の場と看護（外来治療、入院治療） 主体的・継続的な治療参加	講義
14	がん患者の療養支援 地域で生活する患者・家族を支えるシステム	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点 （血液・造血器 20 点 性感染症 10 点 腎・泌尿器 30 点 がん看護 40 点）	
テキスト	成人看護学 [4] 血液・造血器（医学書院） 成人看護学 [8] 腎・泌尿器（医学書院） 成人看護学 [9] 女性生殖器（医学書院） 別巻 がん看護学（医学書院）	

分野	専門分野	成人看護学
科目名	成人看護援助論Ⅴ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	廣瀬 朝江（1～7） 寺側 優里（上尾中央第二病院）（8～14）	
授業概要	生命の危機状態における身体的・精神的・社会的特徴とその変化を理解し、看護師に求められる専門的能力を学ぶ。また、身体侵襲状況を代表とする周手術期における看護の役割を学ぶ。さらに、終末期および緩和ケアの現状を理解し、病気の種類、病期、年齢、療養場所を問わない他職種による横断的なケアと看護の役割を学習する。	
到達目標	1. クリティカルケア看護の特性と役割を理解する。 2. 手術療法を受ける患者の特徴を知り看護の役割を理解する。 3. 終末期医療の現状と看護の役割について理解する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	クリティカルケア看護の特性と患者の特徴	講義
2	クリティカルケア看護の実践に必要なマネジメント、倫理・法律	講義
3	クリティカルな患者の主疾患の理解と看護	講義
4	周手術期（身体侵襲を受けた）にある患者の特徴	講義
5	術前・術中・術後の看護	講義
6	手術を受ける患者の看護 術後合併症の理解	講義
7	術後の回復を促進する援助	講義
8	終末期医療の概論	講義
9	緩和ケアの理念・歴史 死の受容	講義
10	緩和ケアにおけるコミュニケーション	講義
11	終末期にある患者の全人的苦痛と看護介入 QOL の保障	講義
12	身体症状マネジメントとケア	講義
13	代替・補完療法 緩和ケアにおける倫理的問題	講義
14	精神・社会・スピリチュアルな側面に対するケア 家族への支援	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点 （クリティカルケア看護 50 点 終末期看護 50 点）	
テキスト	別巻 クリティカルケア看護学（医学書院） 別巻 臨床外科看護総論（医学書院） 別巻 緩和ケア（医学書院） 授業で配布する資料	
参考図書		

4. 老年看護学

老年看護学の考え方

老年期は、人としての英知を統合して、いずれは穏やかな死を迎える段階である。加齢現象は身体の生理機能の低下を引き起こし、高齢者の生活や社会・心理的側面に大きな影響を及ぼす。しかし、第一線を退いたとは言え、高齢者の多くは経験を積み、さまざまな事に熟知している。その豊富な経験と訓練によって習得された技能は資産と言える。

老年看護学を学ぶ学生は若者が大多数であり、核家族化された社会で成長したため高齢者と接する機会が少ない。また、現代は若者中心の文化であり、高齢者を尊重し、人生の先輩として尊敬や畏敬の念を抱きにくい社会環境にある。一方で 2007 年に超高齢社会に突入したわが国では、病院でも地域でも看護の対象は高齢者が圧倒的多数を占める。そこで老年看護学では、高齢者の生きてきた社会背景、生活実態、加齢に伴う諸機能の変化、取り巻く環境、個人差等の特徴を理解することから始め、その人の生活を知ることによって理解を深め、生命と人格を尊重できる態度を養う。さらに、高齢者にとっての最適な健康とは、健康レベルや生活の自立度は様々であっても本人や家族が望む生活を実現することである。そのため日常生活能力維持増進、疾病の予防・回復、苦痛緩和への援助、そして高齢者の抑制や虐待など権利や擁護について学習し、介護を行う家族の介護負担（ストレス）が及ぼす影響等について考えながら、安全な生活が送れるような看護の役割を学ぶ。

さらに超高齢社会の保健医療対策の現状、課題と対策を考察し、高齢者を取り巻く社会等から対象を理解し、高齢者の健康課題とその家族の QOL を高めるための支援を学ぶ。

目的

加齢に加え慢性疾患をかかえる高齢者に対して、最適な健康が送れるよう生活を整えるために、老年期にある対象と家族及び支える人々を理解し、健康状態とその変化や自立度に応じた看護実践のための基礎的能力を習得する。

目標

1. 加齢に伴う高齢者の生活と、健康状態の変化について理解する。
2. 様々な健康状態にある高齢者とその家族の生活および健康を支える看護について理解する。
3. 健康を障害された高齢者とその家族に対して、QOL 向上のためのアセスメントや具体的な方法の計画立案ができる。
4. 多様な生活の場で高齢者の健康を支える看護について理解する。

科目の構成・計画

科目名	内容	単位(時間)		第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年	
老年看護学概論	概論	1	30	1	30				
老年看護援助論Ⅰ	生活機能の特徴 健康課題の特徴	1	30			1	30		
老年看護援助論Ⅱ	看護過程の展開	1	15			1	15		
老年看護演習	高齢者見守り訪問	1	15	1	15				
小 計		4	90	2	45	2	45		

分野	専門分野	老年看護学
科目名	老年看護学概論	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	辻 玲子	
授業概要	身体機能や社会環境が変化していく老年期の特徴的な発達課題を理解し、日常生活に及ぼす影響について学ぶ。さらに、健康な生活を送るための環境や倫理的課題、社会問題について理解し、老年期の対象と家族の健康と QOL 向上のための看護の役割について学ぶ。	
到達目標	1. 老年期の身体的・精神的・社会的変化を理解し、老年看護の対象を理解できる。 2. 老年期の対象を取り巻く保健・医療・福祉の動向と課題が理解できる。 3. 老年期の対象の尊厳と権利擁護を理解できる。 4. 老年期の対象と家族の健康と QOL について理解を深め、看護の役割について理解できる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	老いるということ、老いを生きるということ	講義
2	老年期を生きる人の理解（時代背景）	講義
3	超高齢社会と社会保障（我が国の高齢化・世帯・健康・くらし）	講義
4	介護保険制度	講義
5	高齢者の動きの制限を支える看護	講義
6	認知機能障害のある高齢者の看護	講義
7	高齢社会における保健医療福祉の動向	講義
8	高齢社会における権利擁護（差別・虐待・拘束・権利擁護の制度）	講義
9	老年看護学の変遷（老年看護の目指すもの）	講義
10	介護家族への看護	講義
11	地域資源を活用した看護の展開	講義
12	エンドオブライフケア	講義
13	高齢者と医療安全	講義
14	高齢者と災害看護	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	老年看護学（医学書院） 老年看護 病態・疾患論（医学書院）	
参考図書		

分野	専門分野	老年看護学
科目名	老年看護援助論 I	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	木村 広佳（指扇療養病院）（1～7） 木村 京子（8～14）	
授業概要	健康を障害された老年期の対象者に対し、健康問題を総合的にとらえるために機能障害、疾病のあらわれ方の特徴や診断、治療過程について理解し、回復を促し生活機能を整えるためのアセスメントや援助の方法を学習する。	
到達目標	1. 高齢者におこる機能障害について理解し、回復を促し生活機能を整えるためのアセスメント、援助の方法が理解できる。 2. 老年期に多い健康問題の特徴を把握し、それに応じた援助方法を理解することができる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	日常生活を支える基本動作	講義
2	転倒・廃用症候群のアセスメントと援助	講義
3	食生活（栄養ケア・マネジメント含）のアセスメントと援助	講義
4	排泄のアセスメントと援助	講義
5	清潔と生活リズムを整えるアセスメントと援助	講義
6	コミュニケーション（失語症・構音障害含）能力のアセスメントと援助	講義
7	セクシュアリティのアセスメントと援助 社会参加への支援	講義
8	高齢者疑似体験	講義
9	高齢者のヘルスアセスメント	講義
10	高齢者のヘルスアセスメント	演習
11	治療を必要とする高齢者の看護（入院治療・薬物療法）	講義
12	認知機能障害のある高齢者の看護	講義
13	褥瘡のアセスメントと看護	講義
14	褥瘡のアセスメントと看護	演習
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点 （指扇療養 50 点・木村 50 点）	
テキスト	老年看護 病態・疾患論（医学書院） 老年看護学（医学書院）	
参考図書		

分野	専門分野	老年看護学
科目名	老年看護援助論Ⅱ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	木村 京子	
授業概要	紙上事例により老年期に起こりやすい健康問題や QOL 向上のためのアセスメント、援助計画立案の知識を習得し、一部実施・評価することで看護過程を展開する方法を学ぶ。	
到達目標	1. 事例をとおして健康を障害された高齢者の向上の QOL ためのアセスメントの視点が理解でき、対象に合わせた看護計画の立案、援助の具体的方法を理解できる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	老年期の看護過程の展開について 紙上事例の提示	講義・演習
2	情報収集（主観的情報・客観的情報）	講義・演習
3	分析・解釈	講義・演習
4	関連図の作成 患者全体像の把握 看護上の問題抽出 看護診断	講義・演習
5	看護目標、優先順位の設定と看護計画立案	講義・演習
6	紙上事例患者の情報共有	演習
7	看護計画の実施	演習
8	看護記録と看護計画の評価・方法	講義・演習
成績評価の方法	合否	
テキスト	老年看護学（医学書院） 老年看護 病態・疾患論（医学書院） NEW 実践！看護診断を導く 情報収集・アセスメント（学研） NANDA-I 看護診断 定義と分類 2024-2026（医学書院） 看護がみえる看護過程の展開（メディックメディア）	
参考図書		

分野	専門分野	老年看護学
科目名	老年看護演習	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	木村 京子	
授業概要	隣接する団地に居住する独居高齢者宅へ定期的に訪問することで、老年期にある対象との関係を構築するためのコミュニケーションの基礎を習得する。さらに、対象者の身体的・精神的・社会的状況を知り生活に及ぼす影響について考察する。	
到達目標	1. 高齢者との関係構築のためコミュニケーションの基礎を理解し、実践することができる。 2. 訪問する対象者に関心を持ち、誠実に向き合い相手を尊重する態度で接することができる。 3. 日常生活の様子から、高齢者の身体的・精神的・社会的状況を総合的に知り、生活を理解することができる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	DP4 看護実践能力 <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	演習のオリエンテーションと対象者へ挨拶	講義・演習
2	見守り訪問	演習
3	見守り訪問	演習
4	見守り訪問	演習
5	見守り訪問	演習
6	見守り訪問	演習
7	学びの共有 まとめ	演習
8	学びの共有 まとめ	演習
成績評価の方法	合否	
テキスト	老年看護学（医学書院） 老年看護 病態・疾患論（医学書院）	
参考図書		

5. 小児看護学

小児看護学の考え方

21 世紀を生きる子どもたちが、より健やかに成長・発達を遂げていくことは、人類共通の願いです。ヒトは、生まれてからすぐに一人で生活を始めるのではなく、周囲の大人が子どもの未熟さを補い養護する必要がある。言い換えるならば、子どもは家族に守られ、家族との相互作用のなかで、最初の人間関係を築き、生活習慣を確立し、少しずつ社会性を身につけてゆく。近年、子どもを取り巻く社会環境は急激に変化し、少子・高齢化の時代を迎えている。この少子化の背景には、女性の社会進出に伴う、結婚に対する意識の変化、さらに晩婚化などによる未婚率の上昇がある。子どもは兄弟姉妹、あるいはさまざまな年齢の友人と交流する機会が減り、社会性がはぐくまれにくい環境に置かれている。また、核家族化や都市化の進行によって、家庭や地域に子育ての支援者がいないことも、親の育児の負担感も増大させている。育児に不安を感じる親が増加し、子どもへの暴力や育児放棄にいたってしまう家族さえいる。また、学校では不登校児童が増加するなど、子どもにかかわる様々な問題が顕在化している。

わが国では 1947 年「児童福祉法」において「18 歳未満の者」を「児童」と定義し、心身ともに健やかに生き、生活できることを保障する理念と同時に、保護者のみでなく国や地方公共団体が育成する責任を示している。さらに 1951 年日本国憲法を背景に「児童憲章」が制定され、子どもを社会がどのようにまもり育てるべきかについて基本的な考え方がまとめられた。

これからの社会を担う子どもの命を大切に守り、困難な状況を改善し、健やかな成長・発達を保障することは、医療をはじめとする社会全体の責務といえる。それでも世界では地域紛争や貧困など、子どもの生命を脅かす状況が見受けられる。1989 年国連総会では「子の権利に関する条約」で、子どもを単なる保護されるべき対象としてだけでなく「子どもは人権を有し、権利を行使する主体である」と位置づけているが、子どもを取り巻く状況は、児童虐待が深刻化し従来の規範のみでは対応しきれなくなっていた。そこで日本では 2000 年、児童虐待の防止に関する法律が成立している。さらに母子保健の取り組みとして「健やか親子 21」が策定され乳児保育サービスの推進や雇用環境の整備が進められている。

このような社会の中で子どもの権利と健康を守り、健やかな成長・発達を支えるために、小児看護の役割は大きい。子どもを家族の中の存在と位置づけ、子どもだけではなく家族も含めた看護の対象とし、さらに、家族の特徴およびその現代社会環境をより広い視野からとらえた小児看護を目指す。

目的

小児期の身体的・精神的・社会的特徴の理解を基盤とし、あらゆる健康レベルにある小児とその家族に看護を実践するための知識・技術・態度を育成する。

目標

1. 小児看護の対象である子どもについて身体的・精神的成長発達を理解し、子どもを取り巻く家族や社会環境との関連を理解する。
2. 子どもの健康と権利を守るための諸制度とその活用について理解する。
3. 育児・保育など家族役割の問題と看護の支援について理解する。
4. 子どもが健康な生活を送るための保育・看護の役割について理解する。
5. 小児各期の疾患の特徴を理解し、健康を障害された子どもとその家族への援助方法を理解する。

科目の構成・計画

科目名	内容	単位(時間)		第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年	
小児看護学概論	概論	1	15	1	15				
小児看護援助論Ⅰ	病態・疾患	1	15			1	15		
小児看護援助論Ⅱ	援助の方法	1	30			1	30		
小児看護援助論Ⅲ	技術	1	30			1	30		
小 計		4	90	1	15	3	75		

分野	専門分野	小児看護学
科目名	小児看護学概論	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	佐藤 華子	
授業概要	子どもの特徴や健康な子どもの成長発達の様子を理解し、子どもの人権や健康を守るための法律と仕組みについて学ぶ。さらに子どもの健康増進のために必要な看護師の役割を学ぶ。	
到達目標	1. 小児看護の理念、家族と共に子どもの権利を擁護する小児看護の考え方を習得する。 2. 小児看護の対象である子どもについて身体的、精神的、社会的な側面を把握し、対象の特徴を総合的に理解する。 3. 子どもの健康増進や人権を守るための制度とその活用方法について理解する。 4. 子どもが健康な生活を送るための養育・看護について理解する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	小児看護の特徴 ①小児看護の対象 ②子どもの特徴 ③小児看護の役割	講義
2	子どもを取り巻く環境と小児に関する法制度・社会資源 ①社会的課題 ②小児看護と法律・制度 ③社会資源	講義
3	子どもの権利と倫理	講義
4	小児看護における家族の役割	講義
5	子どもの成長発達と看護（1） ①発達課題と発達理論 ②成長・発達とは ③成長発達の原則 ④発達評価 ⑤新生児期の成長発達	講義
6	子どもの成長発達と看護（2） ①乳児期の成長発達 ②幼児期の成長発達	講義
7	子どもの成長発達と看護（3） ①学童期の成長発達 ②思春期の成長発達	講義
8	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価 の方法	成果物 40 点 筆記試験 60 点	
テキスト	小児看護学[1]小児看護学概論／小児臨床看護総論（医学書院）	
参考図書		

分野	専門分野	小児看護学
科目名	小児看護援助論Ⅰ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	西本 創（1～5） 川嶋 寛（6～7）	
授業概要	小児期の機能障害の概要を知り、それぞれの機能の障害が起こる疾患の病態生理・症状・診断・治療を学ぶ。またそれらの機能障害が日常生活に及ぼす影響を学ぶ。	
到達目標	1. 小児期に多くみられる疾患の病態生理を理解する。 2. 小児期によくみられる機能障害について身体的アセスメントができる基礎知識を習得し、検査・治療の方法を理解する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> DP2 人間関係を築く能力 <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	小児疾患総論	講義
2	・未熟児 ・消化器疾患 ・先天性疾患	講義
3	小児伝染性疾患 ・ネフローゼ症候群 ・アレルギー疾患	講義
4	疾病を診断する主な検査	講義
5	主な治療	講義
6	小児外科の主な疾患の診断と治療	講義
7		
8	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点 （小児疾患 70 点 小児外科 30 点）	
テキスト	小児看護学 [2] 小児臨床看護各論（医学書院）	
参考図書		

分野	専門分野	小児看護学
科目名	小児看護援助論Ⅱ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	添田 啓子（1～8,11,12） 平田 美香（9,10） 佐藤 華子（13～14）	
授業概要	健康を障害されることが、子ども・家族にとってどのような意味があるのか、子どもと家族の体験について学び、子どもによくみられる症状、健康レベルや生活背景に応じた援助の方法を学ぶ。	
到達目標	1. 健康を害することは子どもや家族にとってどのような体験なのか理解する。 2. 健康障害を持つ子どもや家族への看護について、基本的な考え方や理論に基づいた援助の方法について理解する。	
DP と の 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護	講義
2	急性期にある子どもと家族への看護 ①発熱 ②脱水・嘔吐・下痢 ③呼吸困難 ④けいれん	講義
3		
4		
5	周手術期にある子どもと家族への看護 1) 痛みを表現している子どもと家族への看護 2) 活動制限が必要な子ども家族への看護 3) 先天性疾患のある子どもと家族への看護	講義
6		
7		
8	慢性的な疾患・障害がある子どもと家族への看護	講義
9	終末期にある子どもと家族への看護 1) 子どもの死の理解と看護 2) 終末期にある子どもと家族への緩和ケア	講義
10		
11	特別な状況にある子どもと家族への看護 1) 虐待を受けている子どもと家族の看護 2) 災害を受けた子どもと家族への看護	講義
12		
13	心身障害のある子どもと家族への看護	講義
14	医療的ケアの必要な子どもと家族への看護	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点(添田 85 点・佐藤 15 点)	
テキスト	小児看護学〔1〕小児看護学概論/小児臨床看護総論（医学書院） 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論（医学書院） 看護実践のための根拠がわかる小児看護技術(メヂカルフレンド社)	
参考図書		

分野	専門分野	小児看護学
科目名	小児看護援助論Ⅲ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	2 年後期	
担当教員名	佐藤 華子	
授業概要	子どもの権利を擁護し、子どもの安全で安楽なケアを提供するために、科学的な根拠に基づいた援助の方法を学ぶ。	
到達目標	1. あらゆる年齢、健康レベルにある子どもが主体となって、治療、検査、処置に取り組むための援助方法を理解する。 2. 子どもの成長・発達を理解し発達段階に応じた援助方法を理解する。 3. 子どもの権利と倫理的配慮に基づいた援助方法を理解する。 4. 子どもにとって最善のケアを提供することができるよう家族を含めた援助方法を理解する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	1. 小児看護技術とは	講義
2	2. 小児の日常生活を整える援助	講義
3	3. 小児の日常生活を整える援助技術 1) 抱き方	演習
4	2) 排泄ケア 3) 遊び	
5	4. 小児に必要なアセスメント	講義
6	5. 小児に必要なアセスメント技術 1) 身体測定	演習
7	2) バイタルサイン測定 3) 環境整備	
8	6. 検査・処置を受ける子どもへの看護	講義
9	7. 検査・処置を受ける子どもへの看護技術 1) 与薬	演習
10	2) 吸引・吸入 3) 胸骨圧迫	
11	8. 事例を通して子どもに必要な援助を考える	講義・演習
12	1) 情報用紙とアセスメントシート	
13	2) 援助計画	
14	3) 発表	
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	小児看護学 [1] 小児看護学概論／小児臨床看護総論 (医学書院) 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 (医学書院) 看護実践のための根拠がわかる小児看護技術 (メヂカルフレンド社)	
参考図書		

6. 母性看護学

母性看護学の考え方

母性看護実践の中核となる理念は、女性と子どものリプロダクティブヘルス／ライツ、女性の自己決定権を尊重・擁護する立場を維持することである。そして家族全体をまるごととらえ、家族成員の関係性や家族機能に着目し、家族を中心とした看護を展開できることである。

母性看護の対象は、女性の一生を対象とするだけではなく生殖や育児のパートナーとしての男性、子どもを育てる家族、その家族が生活する地域社会を含んでいる。

現在母子を取り巻く環境は、性の多様化、未婚や晩婚化による少子化、家族の多様化により「子を産み、育てる」ことの価値観にも変化が生じてきている。また、孤独な育児のよる産後うつ病や虐待も問題となっている。

次世代が健康に生まれ育つことが普遍的な人類の願いであり、子どもをより健康な状態で産み育てるために妊娠前から子育てまで切れ目のない母性への支援を学んでいく。さらに不妊症の増加による生殖補助医療や出生前診断など医学の進歩により、生命誕生に関わる倫理についても考えていく。そして子どもや母親、女性、親となる家族を理解するための母性看護を目指す。

目的

リプロダクティブヘルスの意義を把握するとともに、女性の一生を通して、母性の特徴を理解し、対象に適した看護を実践するための知識・技術・態度を養う。

目標

1. 生命の誕生を通し、「生命尊重」「生命倫理」について視野を広げる。
2. 母性を取り巻く社会状況の変化を知り、現代社会における母性の概念を理解する。
3. 母性各期にある対象の特徴と健康課題を理解し、病態や必要な健康教育について学ぶ。
4. 周産期にある妊娠、分娩、産褥の一連の過程から新生児に至るまでの正常な経過と正常から逸脱した状態について理解し、母子および家族に対する適切な看護を学ぶ。
5. 自己の母性・父性について考えることができる。

科目の構成・計画

科目名	内容	単位(時間)		第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年	
母性看護学概論	概論	1	15	1	15				
母性看護援助論Ⅰ	ライフサイクル各期の看護	1	15	1	15				
母性看護援助論Ⅱ	周産期の看護 (妊娠期・分娩期)	1	30			1	30		
母性看護援助論Ⅲ	周産期の看護 (産褥期・新生児期)	1	30			1	30		
小 計		4	90	2	30	2	60		

分野	専門分野	母性看護学
科目名	母性看護学概論	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	畑崎 紀子	
授業概要	少子化、女性の社会進出、国際化などの社会情勢の変化により子を産み育てることの価値観が多様化している現状を理解し、その動向と母子保健施策の活用を学ぶ。また女性や家族の健康の保持増進を図るためのリプロダクティブヘルス／ライツの概念を学ぶ。さらに、生殖技術の進歩による生命倫理の新たな構築の視点を学ぶ。	
到達目標	1. 生命の誕生と「生命尊重」「生命倫理」について考える。 2. 母性を取り巻く社会状況の変化を知り、現代社会における母性の概念を理解する。 3. 母性看護の変遷・動向を理解し、母性看護の役割および今後のあり方について理解する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	母性の身体的・心理的・社会的特性母性看護の概念 セクシュアリティ	講義
2	家族のライフサイクルと発達課題	講義
3	リプロダクティブヘルス／ライツ	講義
4	母性看護の歴史的変遷と現状	講義
5	母子保健統計の動向と母子保健施策	講義
6	母子保健にかかわる機関 ・周産期医療システム ・子ども家庭センターほか	講義
7	母性看護における生命倫理 国際化社会における母性看護	講義
8	まとめ 筆記試験 (50 分)	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	母性看護学 [1] 母性看護学概論 (医学書院)	
参考図書	国民衛生の動向	

分野	専門分野	母性看護学
科目名	母性看護援助論Ⅰ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	小林 千恵子	
授業概要	女性のライフサイクル各期の特徴とその時期に起こりやすい疾患の病態、検査、治療を理解する。また、それらが日常生活に及ぼす影響と関連する法律や必要な看護を学ぶ。	
到達目標	1. 女性のライフサイクル各期の特徴を理解する。 2. 女性のライフサイクル各期に起こりやすい疾患の病態を理解する。 3. 疾患が日常生活に及ぼす影響をアセスメントできる基礎的知識を理解する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> DP2 人間関係を築く能力 <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	乳幼児期・小児期の特徴と健康問題（性の分化）	講義
2	思春期の特徴と健康問題（月経異常・性感染症）	講義
3	成人期の特徴と健康問題（子宮筋腫・子宮内膜症）	講義
4	成人期の健康問題（不妊症・不育症・異所性妊娠）	講義
5	成人期の健康問題（子宮頸がん・子宮体がん・卵巣腫瘍）	講義
6	成人期の健康問題（乳腺腫瘍）	講義
7	更年期・老年期の特徴と健康問題（更年期症状・膣炎）	講義
8	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	母性看護学〔1〕母性看護学概論（医学書院） 成人看護学〔9〕女性生殖器（医学書院）	
参考図書		

分野	専門分野	母性看護学
科目名	母性看護援助論Ⅱ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	小林 千恵子	
授業概要	周産期における妊娠期・分娩期の生理を理解する。また、身体的・精神的・社会的側面を考え、妊娠期・分娩期の健康を保持増進するために必要な知識と技術を学ぶ。さらにハイリスク因子、正常から逸脱した場合の治療、看護について学ぶ。	
到達目標	1. 妊娠期・分娩期の妊婦・胎児・産婦の生理的変化、心理・社会的変化を理解する。 2. 妊娠期・分娩期の妊婦・胎児・産婦の健康状態をアセスメントし健康の保持増進、異常の早期発見、治療や看護するために必要な知識と技術を習得する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	妊娠期の妊婦と家族の生理的変化、心理・社会的変化	講義
2	妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント	講義
3	ハイリスク妊娠とは 妊娠高血圧症候群と看護 糖代謝異常と看護	講義
4	流産・早産・切迫流早産と看護	講義
5	常位胎盤早期剥離・前置胎盤・血液型不適合妊娠と看護	講義
6	妊婦・胎児の健康を保持増進するための技術（レオポルド触診法・胎児心音聴取）	演習
7	妊婦・胎児の健康を保持増進するための技術（妊婦体験・妊婦健診）	演習
8	分娩期の産婦と胎児、家族の生理的変化、心理・社会的変化	講義
9	分娩三要素の異常（産道・娩出力・娩出物）	講義
10	産婦と胎児の健康状態のアセスメント	講義
11	分娩期の産婦と胎児、家族が安全安楽に過ごすために必要な技術	演習
12	分娩期の産婦と胎児、家族が安全安楽に過ごすために必要な技術	演習
13	不妊治療後の妊娠と看護・無痛分娩（和痛分娩）と看護	講義
14	分娩時異常出血と看護 産科処置と帝王切開術前・中・後の看護	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	母性看護学〔2〕母性看護学各論（医学書院）	
参考図書		

分野	専門分野	母性看護学
科目名	母性看護援助論Ⅲ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	小林 千恵子（1～6） 畑崎 紀子（7～14）	
授業概要	周産期における産褥期・新生児期の生理を理解する。また、身体的・精神的・社会的側面を考え、妊娠期・分娩期の健康を保持増進するために必要な知識と技術を学ぶ。さらにハイリスク因子、正常から逸脱した場合の治療、看護について学ぶ。	
到達目標	1. 産褥期・新生期の褥婦・新生児の生理的変化、心理・社会的変化を理解する。 2. 産褥期・新生児期の褥婦・新生児の健康状態をアセスメントし健康の保持増進、異常の早期発見、治療や看護するために必要な知識と技術を習得する。	
DP と の 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	産褥期の褥婦と家族の生理的変化、心理・社会的変化	講義
2	褥婦と家族の健康状態のアセスメント・出産後入院中の看護・施設退院後の看護	講義
3	産褥期の異常と看護（産褥熱・弛緩出血・精神障害）と看護	講義
4	褥婦の看護（退行性変化・進行性変化の観察）	演習
5	褥婦の看護（授乳促進の援助・調乳・保育器）	演習
6	母子分離時の看護・流・死産後の看護	講義
7	新生児の生理機能	講義
8	新生児の生理機能が正常から逸脱した状態	講義
9	新生児の出生直後から 1 か月までの看護	講義
10	新生児の健康を保持増進するための技術（バイタルサイン測定・抱っこ・おむつ交換）	演習
11	新生児の健康を保持増進するための技術（授乳・沐浴）	演習
12	ハイリスク新生児の看護	講義
13	事例の看護展開	講義・演習
14	事例の看護展開	講義・演習
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点 （小林 40 点、畑崎 60 点）	
テキスト	母性看護学〔2〕母性看護学各論（医学書院）	
参考図書		

7. 精神看護学

精神看護学の考え方

精神看護学は、すべての人が対象となりその人格形成・発達課題に深く関わる領域である。従来の精神疾患だけでなく、時代の流れや現代社会・人との関係の中で起きている。いじめ、ひきこもり、自殺、パーソナリティの問題や心身症、アデクション、虐待、偏見などの問題にも焦点をあて、幅広いこころの健康問題を捉える必要がある。

精神疾患をかかえる人が地域で暮らすのは当たり前のことになってきており、日本でも状況は大きく変化しつつある。近年の精神保健医療福祉に関する施策では、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方針が示され、アウトリーチシステムなどの、地域での支援体制の充実が図られている。長期入院していた患者が住み慣れた病院から離れて、地域で自立して生活をするには、克服しなければならない問題がいくつもあるため、精神障害を持ちつつ生きている人の自己実現を支援する必要がある。自己実現を支援するという視点から、①長期入院患者の退院を地域で支援すること②精神障害を持つ人が地域で自分なりの生活を継続する支援が必要となる。

精神障害を持つ人々や家族の回復ということを援助の中心にすえ、病理や問題より当事者の持つ力（ストレングス）あるいはレジリエンスといったポジティブなかかわり方を学び、更に日本の精神医療体制の現状を知り、各個人の精神障害に関する認識をみつめ、そこに潜む根強い偏見に対して、問題意識を持ってノーマライゼーションについて考えた精神看護を目指す。

目的

あらゆるライフ・サイクルの心に焦点をあて、そこから発生する心と身体の問題を理解し、その人らしい生活を支援できる能力を養うための基礎的知識・技術・態度を養う。

目標

1. 発達課題達成の仕方や環境との相互作用に起因する心の健康について考えることができる。
2. 精神の歴史から、精神障がい者の処遇・治療を学び、現在の問題点や今後のあり方について考えることができる。
3. 精神保健・医療・福祉・法律を学び、地域の社会資源の活用と、そこで生活する人（家族含）のサポートの基本的知識を学ぶ。
4. ケアの基盤となる治療的人間関係と自他理解について基本的な考え方を理解する。
5. 精神の健康問題の表われ方と生活への影響を知り、そのケアの方法について学ぶ。
6. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルスについて学ぶ。

科目の構成・計画

科目名	内容	単位(時間)		第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年	
精神看護概論	概論	1	15	1	15				
精神看護援助論Ⅰ	疾患・病態	1	15			1	15		
精神看護援助論Ⅱ	援助の方法	1	30			1	30		
精神看護援助論Ⅲ	技術	1	30			1	30		
小 計		4	90	1	15	3	75		

分野	専門分野	精神看護学
科目名	精神看護学概論	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	1 年後期	
担当教員名	岩田 真明	
授業概要	精神障がい者の処遇の歴史を概観し、現在の精神障がい者が置かれている状況を理解し、精神看護の対象のとらえ方と看護の基本的な考え方を学ぶ。	
到達目標	1. 心の健康の保持・増進について理解する。 2. 精神障がい者の基本的な考え方、および精神看護を実践する者としての視点や態度について理解する。 3. 精神保健・医療・福祉の法律や制度を理解する。 4. 人間の心の構造と発達、対象と関係のなかで自己が形成される過程などを理解する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	心のケアと現代社会 災害と心のケア メンタルヘルス	講義
2	精神保健の考え方 健康とはどういう状態か 精神障害の捉え方	講義
3	精神看護の役割・対象・活動の場 精神看護の特徴	講義
4	人間の心のはたらきとパーソナリティ 心の機能と発達	講義
5	関係のなかの人間 家族をはじめとするさまざまな集団	講義
6	精神を病むことと生きること さまざまな精神症状	講義
7	精神障害と治療の歴史 精神科で必要な法律と制度	講義
8	まとめ 筆記試験 (50 分)	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	精神看護学 [1] 精神看護の基礎 (医学書院) 精神看護学 [2] 精神看護の展開 (医学書院) (1・2・7 章)	
参考図書		

分野	専門分野	精神看護学
科目名	精神看護援助論Ⅰ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	岡野 淳優	
授業概要	精神機能障害の機能障害の特徴を知り、それぞれの機能の障害が起こる疾患の病態生理・症状・診断・治療を理解する。またそれらの機能障害が日常生活に及ぼす影響を学ぶ。	
到達目標	1. 精神障害にみられる疾患の病態生理を理解する。 2. 精神科における検査、治療、各種療法について理解する。 3. 精神の健康問題の表れ方と生活への影響を考えることができる。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	精神障害の診断と分類 精神症状 統合失調症（急性期・慢性期）の病型とその症状	講義
2	気分（感情）障害 神経症性障害	講義
3	生理的障害および身体的要因	講義
4	依存症・パーソナリティ障害・強迫障害について	講義
5	精神科における治療	講義
6	精神療法 個人療法・集団精神療法・家族療法	講義
7	薬物療法 環境・社会療法	
8	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	精神看護学〔1〕精神看護の基礎（医学書院） 精神看護学〔2〕精神看護の展開（医学書院） 5・6 章	
参考図書		

分野	専門分野	精神看護学
科目名	精神看護援助論Ⅱ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	平岡 昌樹（1～7） 岩田 真明（8～14）	
授業概要	精神障がい者の持つ疾患からくる生活のしづらさに焦点をあて、そこで必要な看護援助を学ぶ。また精神における治療場面での患者－看護師関係の持ち方、治療的関わりを形成するための対人関係の技術を理解する。	
到達目標	1. ケアの基盤となる治療的対人関係について理解する。 2. プロセスレコードを用いて自分の感情や思考を表現する方法を理解する。 3. 精神障害を持つ人や家族への看護について、基本的な考え方や理論に基づいた援助の方法について理解する。	
DP との 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	第8章 ケアの人間関係 ケアの前提 ケアの方法	講義
2	関係をアセスメントする プロセスレコードとは	講義
3	プロセスレコードの読み方	講義
4	患者－看護師関係における感情体験 転移・逆転移 共感	講義
5	関係の視点から見た困難事例 チームのダイナミクス	講義
6	第9章 回復を支援する	講義
7	回復の意味 看護の役割 回復を支えるためのプログラム ソーシャルスキルトレーニング（SST）・認知行動療法（CBT）	
8	第11章 入院治療の意味 精神科を受診するという事	講義
9	治療の器としての病院・病棟 入院中の観察とアセスメント	講義
10	ケアの方向性を考える 退院に向けての支援と実際	講義
11	第12章 身体をケアする 精神科における身体ケア	講義
12	精神科における身体を通じた看護ケアの実際	講義
13	精神科の治療に伴う身体ケア	講義
14	身体合併症のアセスメントとケア	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点（平岡 50 点・岩田 50 点）	
テキスト	精神看護学〔1〕精神看護の基礎（医学書院） 精神看護学〔2〕精神看護の展開（医学書院） （8・9 章、11・12 章）	
参考図書		

分野	専門分野	精神看護学
科目名	精神看護援助論Ⅲ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	2 年前期	
担当教員名	塩月 玲奈（1～12） 吉川 優子（13～14）	
授業概要	精神障害をもちながら社会で生活を送るための看護について考える。精神を障害された人の理解を深め、精神の健康問題の表れ方と生活への影響と移行支援について学ぶ。	
到達目標	1. 安全について基本的な知識や考え方を知り、安全を守るためのリスクマネジメントを考 えることができる。 2. 精神障がい者の地域生活支援を知り基本的知識を理解する。 3. 実際に当事者の話を聞き、当事者の生活への影響を考えることができる。	
DP と の 関連	<u>DP1 対象を理解する能力</u> <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	第 13 章安全をまもる リスクマネジメントの考え方と方法	講義
2	緊急事態に対処する（自殺・暴力・無断離院）	講義
3	緊急事態とスタッフの支援 グループディブリーフィング	講義
4	第 14 章医療の場におけるメンタルヘルスと看護 身体疾患を持つ患者のメンタルヘルス	講義
5	リエゾン精神看護とその活動 リエゾナーズの活動の実際	講義
6	第 10 章地域におけるケアと支援 「器」としての地域	講義
7	地域における生活支援の方法-地域で精神障害者を支援する際の原則	
8	地域における生活支援の方法-地域生活を支えるシステムと社会資源	講義
9	地域におけるケアの方法と実際-ケアマネジメント、多職種連携	講義
10	地域におけるケアの方法と実際-長期入院患者の支援、家族への支援	講義
11	学校におけるメンタルヘルスと看護 職場におけるメンタルヘルスと看護	講義
12	第 15 章災害時のメンタルヘルスと看護	講義
13	依存症の人に対する支援 当事者の話を聞いての意見交換	講義 演習
14	サバイバーとしての患者とそのケア	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点（塩月 100 点）	
テキスト	精神看護学〔1〕精神看護の基礎（医学書院） 精神看護学〔2〕精神看護の展開（医学書院） CoDA ミーティングハンドブック（コーダジャパン） リカバリー・ウィルダム―回復の知恵―（埼玉ダルク）	
参考図書		

8. 看護の統合と実践

看護の統合と実践の考え方

看護の統合と実践では、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」で学習した内容を基礎として、より臨床実践に近いかたちで学習し知識・技術を統合することで、臨床に必要な実務がスムーズに行えるよう基礎教育の充実を図れる内容とした。

あらゆる看護活動の場において安全な技術を提供し、多職種と連携・協働するチーム医療の一員としての役割を理解する。また、看護をマネジメントする基礎的能力を習得する。さらに、臨床における看護職の役割や責任を意識しながら、よりよい看護を追求するための研究的態度を養う。

目的

現代の医療・医療保険の仕組みを理解し、医療チームの一員として、看護サービスが実践・遂行できる能力を養う。

目標

1. チーム医療及び多職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップおよびリーダーシップを理解する。
2. 看護をマネジメントできる基礎的能力を身につける。
3. 医療安全の基礎的知識を含む内容。災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解する。
4. 国際社会において、広い視野に基づき看護師として諸外国との協力を考えることができる。
5. 実践した看護の中から課題を見出し、ケーススタディとしてまとめる。この過程を通して、看護における研究の基礎能力を身につける。

科目の構成・計画

科目名	内容	単位(時間)		第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年	
看護研究		1	15					1	15
医療安全		1	30					1	30
看護管理		1	30					1	30
災害看護		1	30					1	30
ケーススタディ		1	30					1	30
小 計		5	135					5	135

分野	専門分野	看護の統合と実践
科目名	看護研究	
単位／時間数／授業回数	1 単位／15 時間／8 回	
開講時期	3 年前期	
担当教員名	古橋 洋子	
授業概要	看護研究の意義と必要性を学び、研究のプロセスを理解する。研究論文の査読を通して、論文の批判的よみ方が分かり、データの収集方法や妥当性を高めるための方法を学ぶ	
到達目標	1. 看護における研究の意義を学び、研究の必要性を理解する。 2. 先行研究を批判的に読む力を身につける。 3. データの収集と解析方法を理解する。 4. 専門職として継続して学び続ける研究的態度を身につける。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	看護研究の意義と目的	講義
2	研究の種類 臨床事例研究 調査研究 実験研究 論理的研究 記述的研究	講義
3	研究方法の選択 データの収集	講義
4	統計データのまとめ方・解析法	講義
5	看護倫理と看護研究	講義
6	研究論文の査読	講義
7	研究計画書	講義
8	まとめ 研究計画書提出	講義
成績評価の方法	研究計画書 100 点	
テキスト	看護のためのケーススタディ (医学書院)	
参考図書	「基本がわかる看護研究 ビギナース NOTE 改訂第 3 版」Gakken	

分野	専門分野	看護の統合と実践
科目名	医療安全	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	3 年前後期	
担当教員名	渡邊 亮一（1～6） 細川 桂子（7～12） 多賀 久子（13～14）	
授業概要	医療安全の概要、ヒューマンエラー、医療現場における事故防止のための取り組み、倫理的原則などについて学ぶ。また KYT や事例分析を通して事故の要因対策をグループで検討する。	
到達目標	1. 医療事故をヒューマンエラーの視点で考えることができる。 2. ヒヤリハット分析を通して自己モニタリング力をつける。 3. 組織における医療安全への取り組みを理解する。 4. KYT や事例分析を通して事故防止対策を理解する。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 <u>DP2 人間関係を築く能力</u> <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	DP4 看護実践能力 <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	医療安全と看護の理念 医療安全の意味と重要性 看護職の法的規定と医療安全	講義
2	医療安全への取り組みと医療の質の評価	講義
3		
4	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント	講義
5		演習
6	チームで取り組む安全文化の醸成	講義
7	看護業務に関連する事故と安全対策 看護業務と事故発生要因	講義
8	看護業務に関連する事故と安全対策 分析と対策	演習
9	在宅看護における医療事故と安全対策	講義
10	演習 KYT トレーニング	演習
11	医療従事者の安全を脅かすリスクと対策	講義
12	医療従事者の安全を脅かすリスクと対策	講義
13	心の安全管理～自分の心を守ることが患者さんの安全につながる～	講義
14		
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点（渡邊 50 点・細川 50 点）	
テキスト	看護の統合と実践(2)医療安全（医学書院）	
参考図書		

分野	専門分野	看護の統合と実践
科目名	看護管理	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	3 年前後期	
担当教員名	齊藤 茂子（1～5） 栗原 良子（6～7） 山 真紀（8～14）	
授業概要	看護実践のできる知識と技能をもった人的資源・物的資源・財的資源を、有効利用するために資源の維持・活用するための「しくみ」としての看護管理を学ぶ。さらに、看護サービスを提供するために、組織目的達成のマネジメント・協働のためのマネジメント・情報のマネジメント・技術のマネジメント・サービスの評価について学ぶ。	
到達目標	1. 病院において医療全体が効果的、経済的に機能するための管理方法の基本を理解する。 2. 看護組織における看護サービスの管理方法を理解する。 3. 病棟における看護業務の管理方法を理解し、統合実習につなげる。 4. 臨地実習で直面した臨床の問題を挙げ、その解決のためには何が必要か学習し、自らが看護師であるという前提のもと看護の質を向上するための問題解決策を提案する。	
DP と の 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	DP4 看護実践能力 DP5 地域で活躍できる能力 DP6 看護を創造する能力
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	看護とマネジメント ①看護管理学とは ②マネジメントとは ③看護におけるマネジメント ④看護のマネジメントが行われる場 ⑤看護ケアマネジメントと看護職の機能	講義
2	看護職の協働 ①看護ケア提供システム ②コミュニケーション 他職種との共働 ①情報 ②サービスの評価	講義
3	組織目的達成のマネジメント ①理念の形成と浸透 ②看護の組織化 ③組織の職位と服務規程	講義
4	看護を取り巻く諸制度 ①看護師の定義 ②看護職と専門職制 ③看護職と法制度 ④看護業務 ⑤看護職の職業倫理 ⑥看護職の教育制度	講義
5	医療制度 ①医療保険制度 ②医療費支払いシステム ③看護ケアの対価 ④看護政策と制度	講義
6・7	看護職のキャリアマネジメント 看護職の教育制度	講義
8	臨地実習で直面した臨床の課題を挙げ、その解決のためには何が必要か学習し、看護の質を向上するための課題解決策を提案する。 1. 事前課題レポートの内容を共有 2. グループで焦点を当てる課題を決定 3. 問題解決策の提案のために学習すべき内容と、活用する学習資源を決定 4. 学習成果をグループで共有し、学習内容に基づき課題解決策を検討 5. 発表準備 6. 発表	講義 演習
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 50 点（齊藤 50 点） （山 レポート 50 点）	
テキスト	看護の統合と実践[1]看護管理（医学書院）	
参考図書		

分野	専門分野	看護の統合と実践
科目名	災害看護	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	3 年前後期	
担当教員名	尾形 洋子（1～12） 松井 ゆみ（13～14）	
授業概要	災害看護の基礎知識と看護について理解し、防災・減災および災害時の対応について看護の必要な基本的知識とその実践を学ぶ。さらに、国際化する日本社会における医療・看護の役割について学ぶ。	
到達目標	1. 災害サイクルにおける看護者としての基礎的知識を習得する 2. 災害が被災者の生活や健康に及ぼす影響を理解する。 3. 地域住民と共に避難所設営・運営の訓練を実践し、地域での災害看護を理解する。 4. 国際化する地域社会を見据え、外国人住民を理解し、災害時・緊急時・医療場面などにおける看護師としての支援の在り方を学ぶ。	
DP との 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 <u>DP3 看護を提供するための確実な知識・技術</u>	<u>DP4 看護実践能力</u> <u>DP5 地域で活躍できる能力</u> <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	災害看護の基礎知識 災害の定義	講義
2	災害看護の役割 トリアージの種類と方法・トリアージの実際など	講義
3	災害サイクル 災害発生から急性期・中期・長期の看護	講義
4	災害に関する法律 災害とこころのケア	講義
5	避難所の設営と運営・生活支援	講義
6	災害時を想定した避難所生活での支援と看護活動（グループワーク）	演習
7		
8	避難所設営・運営のための図上訓練作成のグループ発表	演習
9		
10	避難所設営・運営訓練 地域住民と実演活動	演習
11		
12		
13	国際看護 ・災害時に必要な易しい日本語	講義
14	・看護・介護をする上で必要な易しい日本語	
15	まとめ 筆記試験（50 分）	講義
成績評価の方法	筆記試験 100 点	
テキスト	災害看護学・国際看護学（医学書院）	
参考図書		

分野	専門分野	看護の統合と実践
科目名	ケーススタディ	
単位／時間数／授業回数	1 単位／30 時間／15 回	
開講時期	3 年前後期	
担当教員名	畑崎 紀子	
授業概要	実習での看護実践を振り返り、論理的思考に基づき論旨の一貫性を持った論文としてまとめる力を養う。	
到達目標	1. 研究のプロセスを学び、実際の進め方を理解する。 2. 専門職として継続して学び続ける研究的態度を身に付ける。	
DP と の 関連	DP1 対象を理解する能力 DP2 人間関係を築く能力 DP3 看護を提供するための確実な知識・技術	<u>DP4 看護実践能力</u> DP5 地域で活躍できる能力 <u>DP6 看護を創造する能力</u>
授業計画		
回数	授業内容	授業形態
1	ケースを選択する	講義
2	テーマを決定する テーマに関わる文献検索を行う	講義
3	テーマを絞り込む	講義
4	研究計画書を作成する	講義
5	論文を作成する	講義
6		講義
7		講義
8		講義
9	論文を提出する 抄録を作成、提出する	講義
10	発表原稿と資料を作成する	講義
11	ケーススタディを学生相互に評価する	発表
12	発表会	
13		
14		
15	まとめ 評価	講義
成績評価の方法	論文評価 可否	
テキスト	看護のためのケーススタディ（医学書院）	
参考図書	「基本がわかる看護研究 ビギナース NOTE 改訂第3版」Gakken	

IV 臨地実習

実習目的

看護の対象である人間を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた看護実践能力をみにつけるとともに、看護専門職としての態度を養う。

実習目標

1. 人々を身体的・精神的・社会的側面から生活者として総合的に理解し、信頼関係を基盤とした人間関係を形成することができる。
2. 対象者の尊厳を守り、質の高い看護実践を目指そうとする倫理的態度を養う。
3. 対象の健康状態、発達段階、生活の場、状況とその変化に対応し、課題解決のための看護実践の方法を習得する。
4. 地域の人々の健康課題に対応するための、多職種と連携・協働できる基礎的能力を習得する。
5. 看護職を目指すものとして自分が行った看護を振り返り自己の課題を明確にし、主体的に実習に臨むことができる。

1. 基礎看護学実習

1) 実習目的

看護の対象と看護の機能を理解し、看護実践に必要な基礎的能力を養う。

2) 実習目標

- (1) 看護の対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。
- (2) 健康障害のある対象に日常生活を整えるための基礎的な知識・技術・態度を習得する。
- (3) 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの基礎を習得する。
- (4) 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力を習得する。
- (5) 看護職を目指すものとしての倫理観を持ち規律を遵守できる。
- (6) 看護の実践を通して人間・環境・健康・看護に対する理解を深めることができる。

3) 構成

科目名	内容	単位(時間)	
基礎看護学実習Ⅰ	療養環境と看護	1	30
基礎看護学実習Ⅱ	日常生活援助と看護	1	30
基礎看護学実習Ⅲ	看護過程の展開	2	60
小計		4	120

2. 地域・在宅看護論実習

1) 実習目的

地域における人々の暮らしと健康を包括的に支援するための看護の機能と役割を理解し、多職種と連携・協働する基礎的能力を習得する。

2) 実習目標

- (1) 地域で生活する人々を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。
- (2) 地域で生活する人々の意思決定を尊重し、その人らしい生活を支援することの重要性を理解することができる。
- (3) 地域で生活する人々と家族を支える保健・医療・福祉の連携と看護職の果たす役割を理解する。

3) 構成

科目名	内容	単位(時間)	
地域・在宅看護論実習Ⅰ	地域で生活する人々への支援	2	60
地域・在宅看護論実習Ⅱ	在宅療養者と家族への支援	2	60
地域・在宅看護論実習Ⅲ	包括的支援とマネジメント	2	60
小計		6	180

3. 成人看護学実習

1) 実習目的

成人期における健康問題を理解し、多様な健康レベルに応じて個別的な看護を実践できる能力を養う。

2) 実習目標

- (1) 成人期における対象について身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。
- (2) 対象の健康・機能障害を科学的に理解し、援助ができる。
- (3) 回復過程に応じた援助ができる。
- (4) 異常の早期発見、機能回復、セルフマネジメントを促進するための援助ができる。
- (5) 健康・機能障害に伴う日常生活上の制限に対し、援助ができる。
- (6) 社会復帰に向けての援助ができる。
- (7) 医療チームにおける看護師の役割が考察できる。

3) 構成

科目名	内容	単位(時間)	
成人看護学実習Ⅰ	急性期 周手術期の看護	2	60
成人看護学実習Ⅱ	回復期・慢性期の看護 看護過程	2	90
小 計		4	150

4. 老年看護学実習

1) 実習目的

高齢者が健康を維持・回復・増進し、その人らしくより良く生き、生活できるよう個別の看護、あるいは、人生の最終段階にある高齢者の QOL の維持・向上を目指した看護が実践できる能力を養う。

2) 実習目標

- (1) 高齢者の特徴を理解し、身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。
- (2) 高齢者との援助的関係構築を図り、健康上の課題を把握し必要な援助ができる。
- (3) 高齢者とその家族を支える保健・医療・福祉の連携と看護職の役割を理解する。

3) 構成

科目名	内容	単位(時間)	
老年看護学実習Ⅰ	慢性期の看護 看護過程	2	60
老年看護学実習Ⅱ	老年期の健康レベルに応じた看護 看護過程	2	90
小 計		4	150

5. 小児看護学実習

1) 実習目的

小児各期における特徴を理解し、健康障害を持つ子どもと家族に必要な看護が実践できる能力を養う。

2) 実習目標

- (1) 小児期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。
- (2) 健康障害のある子どもと家族に必要な援助ができる。
- (3) 小児保健・医療・福祉の実際を知り、小児看護の役割を考察できる。
- (4) 看護職を目指すものとして適切な態度で実習に臨むことができる。

3) 構成

科目名	内容	単位(時間)	
小児看護学実習	小児期の健康障害に応じた看護	2	60
	小計	2	60

6. 母性看護学実習

1) 実習目的

母子およびその家族をめぐる生活環境を理解し、次世代が健康に生まれ育つために必要な看護が実践できる能力を養う。

2) 実習目標

- (1) 妊産褥婦・新生児・家族を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。
- (2) 母子および家族に必要な援助が実施できる。
- (3) 母子および家族に関する保健・医療・福祉の実際を知り母性看護の役割を考察できる。

3) 構成

科目名	内容	単位(時間)	
母性看護学実習	周産期にある母子および家族に対する看護	2	60
	小計	2	60

7. 精神看護学実習

1) 実習目的

精神を障害された対象および家族を理解し、日常生活や社会生活への適応を支援するための基礎的能力を養う。

2) 実習目標

- (1) 精神に障害をもつ対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。
- (2) 精神に障害を持つ対象者を理解し、日常生活への影響を捉え、援助ができる。
- (3) 場面の再構成を通して、自分の感情や行動の傾向を振り返ることができる。
- (4) 精神保健・医療・福祉の実際を知り精神看護の役割を考察できる。
- (5) 看護職を目指すものとして適切な態度で実習に臨むことができる。

3) 構成

科目名	内容	単位(時間)	
精神看護学実習	健康障害をもつ人の看護	2	60
小計		2	60

8. 統合実習

1) 実習目的

これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、地域に暮らす人々がより健康的な生活を送るために必要な保健・医療・福祉における看護師の役割を理解する。

2) 実習目標

- (1) チーム医療における看護管理について理解できる。
- (2) チーム医療を行う一員として、看護職や多職種との協働・連携について理解できる。
- (3) チームメンバーとして対象に必要な援助ができる。
- (4) 保健医療福祉の機能を理解できる。
- (5) 保健医療福祉が連携する仕組みを理解できる。
- (6) 看護の継続性について理解できる。

3) 構成

科目名	内容	単位(時間)	
統合実習	看護の統合 看護管理、多職種との連携	4	120
小 計		4	120

V 特別活動

I 目的

多様な他者と協働する様々な集団活動に主体的に取り組む体験と、看護職を目指すための学習時間を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

1. 自己の人間関係や学習上の課題と集団の中における役割・責任を認識し、人間関係及び学生生活をよりよく形成する態度を養う。
2. 看護職を目指すものとしての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

II 活動内容および目標

1. クラス委員会活動		「清らかに（高い規範意識を養う）」、「ゆたかに（豊かな感性と表現力を養う）」、「たくましく（たくましく伸びる力を養う）」を行動指針として、豊かな人間関係を形成し、日常生活や学習に主体的に取り組もうとする態度を学ぶ。
2. 学生自治会活動		よりよい学生生活のための学生による自治的な活動に参画することを通して、集団の中で目的を共有し、各々が主体的に意思疎通を図りながら活動に貢献しようとする態度を学ぶ。
3. クラブ活動		学生生活を豊かな充実したものにする。また、異学年との集団活動を通して、望ましい人間関係と役割を分担し合って協力し合う態度を学ぶ。
4. 学校行事	入学式	本校へ入学することを認め看護学生として歩み始めることを祝福する。在校生から入学生へ歓迎の意を表し、入学生は学生生活への目標と決意を表す機会とする。
	新入生ガイダンス	学校の沿革、教育課程、学生生活についてのガイダンスを受け、今後の学習計画を立てるための指針とする。
	新入生歓迎会	在校生から新入生へ歓迎のメッセージを送り、親睦をはかる。
	防災訓練	災害時の安全対策を考え実施する。
	定期健康診断	自身の健康管理に役立てる。
	学校祭	学生の主体的・創造的な活動を通して、学生相互の親睦をはかり所属感・連帯感を高める。さらに学校と地域の人々との交流の機会とし、地域の人々の豊かな生活に貢献する。
	宣誓式	看護職を目指すものとしての自覚を深め、関係者からの激励と祝福を受ける。また、人間の生活の中における看護の価値と、看護専門職としてのあり方を再確認する機会とする。
	卒業生を送る会	在校生から卒業生へ祝福のメッセージを送り親睦をはかる。
	卒業式	看護基礎教育課程を修了したことを認め、看護専門職として歩み始めることを祝福する。卒業生はお世話になった方々へ感謝し、新たな生活への目標と決意を表す機会とする。
5. 教科外学習	以下に示す学習・活動に臨み、看護職ならびに社会人として必要な知識・技術・態度を養う。 1) 解剖見学（1年生） 2) 基礎看護技術試験（1年生） 3) 地域におけるボランティア活動（主に1年生） 4) ケーススタディ発表会参加（1・2年生） 5) 看護師国家試験対策（学習支援、特別講義、模擬試験）（1・2・3年生） 6) 就職支援プログラム（1・2年生） 7) 卒業試験（3年生）	

